

## 17 第二部商経学科専門科目

授業科目	現代社会論	担当者	山口 祐司
	[履修年次] 1、2、3年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 私たちの社会における「分断」の問題を、「グローバリゼーション」と「新自由主義」という視座から考えていきます。</p> <p>【概要】 この授業は、現代社会を主として1970年代以降の資本主義の調整・発展という切り口からとらえていきます。「グローバリゼーション」(第2～4回)、「新自由主義」(第5～7回)でというキーワードでまず理解の枠組みを整理し、現代社会が直面する大きな問題(第8～12回)についてそれぞれ検討します。最後に問題の打開の兆し(第13～14回)をみていきます。</p> <p>【到達目標】 現代社会が直面するさまざまな問題について理解を深めること。問題の背景について考え、これからの社会を作る一員として解決策を見出す力をつけること。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 講義時に提示</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、現代社会をとらえる視座：グローバリゼーションと新自由主義 第2回 グローバリゼーション(1) グローバリゼーションとは何か 第3回 グローバリゼーション(2) グローバリゼーションと企業 第4回 グローバリゼーション(3) グローバリゼーションと国・地域 第5回 新自由主義(1) 経済学における自由 第6回 新自由主義(2) 新自由主義とは何か 第7回 新自由主義(3) 新自由主義政策と格差問題 第8回 現代社会の諸問題(1) 民族・宗教をめぐる国際紛争 第9回 現代社会の諸問題(2) 人の移動と排外主義 第10回 現代社会の諸問題(3) 疲弊する地域経済 第11回 現代社会の諸問題(4) 行き詰まる社会保障システム 第12回 現代社会の諸問題(5) 悪化する地球環境問題 第13回 行き詰まりを打開するために(1) 所得再分配の模索 第14回 行き詰まりを打開するために(2) 世界的に活発化する社会運動 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	事前に提示する参考文献を予習し、授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。		
成績評価の方法	期末レポート(60%)、授業ごとの小論文(40%)		

授業科目	経済学	担当者	山口 祐司
	[履修年次] 1、2、3年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ミクロ経済学・マクロ経済学を中心に経済学の基礎的な考え方を学んでいきます。</p> <p>【概要】 経済とは、経済学の考え方(第1～2回)。ミクロ経済学の基礎理論(第3～7回)。マクロ経済学の基礎理論(第8～14回)。</p> <p>【到達目標】 経済学の基礎的な概念と理論を理解すること。新聞などに登場する時事的な経済問題について、自分なりの観点をもつこと。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) マンキュー、N・グレゴリー(2014)『マンキュー入門経済学[第2版]』東洋経済新報社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業ガイダンス、経済とは何か 第2回 経済学の考え方 第3回 ミクロ経済学の基礎(1) 需要と供給 第4回 ミクロ経済学の基礎(2) 価格決定と政府の政策 第5回 ミクロ経済学の基礎(3) 市場の効率性 第6回 ミクロ経済学の基礎(4) 不完全市場 第7回 ミクロ経済学の基礎(5) ミクロ経済学のまとめ 第8回 マクロ経済学の基礎(1) GDPの測定 第9回 マクロ経済学の基礎(2) インフレーションとデフレーション 第10回 マクロ経済学の基礎(3) 経済成長 第11回 マクロ経済学の基礎(4) 貯蓄、投資と金融システム 第12回 マクロ経済学の基礎(5) マクロ経済政策の役割 第13回 マクロ経済学の基礎(6) 外国貿易 第14回 マクロ経済学の基礎(7) マクロ経済学のまとめ 第15回 全体のまとめ、テスト対策</p>		
授業外学習(予習・復習)	毎回の授業範囲の予習(テキスト)・復習のほか、新聞の経済欄を日常から読むようにしてください。		
成績評価の方法	筆記試験(60%)、授業ごとの小論文(40%)		

授業科目	社会学	担当者	竹内 宏
	[履修年次] 1年、2年、3年いずれでも履修可	授業外対応	メールによる。場合により非常勤講師室にて対応(アポイントメント要)
	[学期] 前期 [単位] 2	[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】社会学とは比較の学問であるとはよく言われることです。この授業では、「社会学」の前に「国際」という語を冠して、グローバル化の影響下にあるドイツと日本の社会について比較考察します。</p> <p>【概要】グローバル化の諸影響の中でも、この授業では国際的人口移動に与える影響を、ドイツと日本の場合について考えてみましょう。ドイツが移民国家となった原因、移民統合政策の現況と課題、日本は移民国家に向かうのか、また、向うべきなのか、さらには、社会と市民の意識の変容と言ったテーマを中心に授業を進めます。</p> <p>【到達目標】「グローバル化」という概念の理解、国際社会に生きる私たちに必要な知識の獲得と意識の涵養。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキスト、文献とも、適宜配布、指示します。</p> <p>(2) 内藤正典『外国人労働者・移民・難民ってだれのこと?』集英社、を必ず購入してください。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、グローバル化とは何か</p> <p>第2回 国際人口移動の原因</p> <p>第3回 難民・移民の具体例</p> <p>第4回 ドイツにおける移民激増の背景と歴史(1)</p> <p>第5回 ドイツにおける移民激増の背景と歴史(2)</p> <p>第6回 「統合」とは何か、「同化」、「編入」</p> <p>第7回 ドイツにおける難民認定とその問題点</p> <p>第8回 統合状況と将来の課題</p> <p>第9回 日本在住のエスニック・マイノリティ(1)</p> <p>第10回 日本在住のエスニック・マイノリティ(2)</p> <p>第11回 日本の外国人政策の問題点(1)</p> <p>第12回 日本の外国人政策の問題点(2)</p> <p>第13回 日本の難民認定</p> <p>第14回 日本が直面するこれからの課題</p> <p>第15回 まとめ、レポートの課題説明</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業に集中すべし特に必要ないが、関連する新聞・雑誌の記事、テレビ等の報道に注意すること		
成績評価の方法	中間小レポート及び期末レポート		
実務経験について	ドイツ連邦移民・難民局等における当該テーマでの講演		

授業科目	文化と社会	担当者	田口 康明
	[履修年次] 1年・2年・3年いずれでも履修可	授業外対応	<a href="mailto:taguchi@k-kentan.ac.jp">taguchi@k-kentan.ac.jp</a> へメール
	[学期] 後期 [単位] 2	[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】文化と社会の関連について、教育的な側面から検討する。手がかりとして、ひとり子どもがどのように社会的文化的にその社会の成員になっていくのかについて検討する。</p> <p>【概要】本科目は、専門基礎科目に位置づけられているが、一定の文化を保持する社会と人間の関わりを子どもの成長という側面からとらえるものである。今日、「幼児」の世界は、「大人」の側からの強大な圧力にさらされ、「幼児」を「幼児」たらしめている「幼児期」が軽視されている。こうした今日の「幼児」と「幼児期」をどのようにとらえるのかについて、テキストをとおして検討する。</p> <p>【到達目標】テキストを熟読することによって、幼児期の特徴について深く理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 岡本夏木『幼児期』岩波新書、2005年</p> <p>(2) 授業内で随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス この授業のすすめ方</p> <p>第2回 「しつけ」1 しつけとは/自己実現</p> <p>第3回 「しつけ」2 「問題解決」としつけ/大人の非合理性</p> <p>第4回 「あそび」1 発達と身体/象徴あそび</p> <p>第5回 「あそび」2 ルール/思考と文化</p> <p>第6回 「表現」1 生活と表現</p> <p>第7回 「表現」2 独自性と共同性</p> <p>第8回 「ことば」1 ことばの世界と身体</p> <p>第9回 「ことば」2 ことばのない世界</p> <p>第10回 「ことば」3 身体と心的世界の結合</p> <p>第11回 「ことば」4 ことばの世界の前</p> <p>第12回 「ことば」5 ことばの成り立ちと私の世界</p> <p>第13回 「ことば」6 関係性とことば</p> <p>第14回 「幼児期」1 存在と時間</p> <p>第15回 「幼児期」2 自分にとっての幼児期 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業内にて指示(テキストの指示した範囲を必ず読むこと)		
成績評価の方法	授業中の発表(各自分担する)70%、ファイナルレポート30%		

授業科目	行政法		担当者	山本 敬生																																																	
	[履修年次]	1,2,3年履修可	授業外対応	適宜対応 (要予約)																																																	
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】行政行為論を中心とした行政法の基礎理論を理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法の基本構造を体系的に把握し、行政の法的コントロールのあり方について学習することをテーマにする。</p> <p>【概要】周知のとおり、行政法は通則的法典が存在しておらず、そのため無数の行政法規を把握するための理論が他の法律学に比べて強く求められる学問である。本講義では、行政法の基本原則である法律による行政の原理（法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則）、行政行為、行政立法、行政計画、行政指導、行政契約等の行政の行為形式論、行政上の義務履行確保制度、行政手続等の行政上の一般制度をわかりやすく解説し行政法の基礎理論を体系的に理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法といった一般法について、国民の権利救済という視点から学習する。</p> <p>【到達目標】行政法の基本原則、行政の行為形式論、行政上の一般制度、行政救済法について説明できるようになり、行政法的視点に立った行政と市民との関係のあり方を考察できる力を習得することを目標にする。</p>																																																				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 佐伯仁志他編、『ポケット六法（令和4年度版）』、有斐閣</p>																																																				
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>行政法概論</td> <td>・行政の定義、法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則について</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>行政立法</td> <td>・法規命令、委任命令、執行命令、白紙委任の禁止の原則、行政規則について</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>行政行為(1)</td> <td>・公定力、不可争力、不可変更力、執行力、拘束力について</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>行政行為(2)</td> <td>・無効の行政行為、取消しうべき行政行為、羈束行為、裁量行為について</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>行政指導</td> <td>・規制行政指導、助成行政指導、調整行政指導、要綱行政について</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>行政上の強制執行制度</td> <td>・代執行、執行罰、直接強制、行政上の強制徴収、行政サービスの提供拒否について</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>行政手続法</td> <td>・申請に対する処分、不利益処分、行政指導、命令等を定める行為の手続について</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>行政不服申立て</td> <td>・審査請求、異議申し立て、再審査請求、教示について</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>行政事件訴訟法(1)</td> <td>・抗告訴訟、民衆訴訟、義務付け訴訟、差止め訴訟、取消訴訟、事情判決について</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>行政事件訴訟法(2)</td> <td>・取消判決の効力、執行不停止の原則、内閣総理大臣の異議、処分性について</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>行政事件訴訟法(3)</td> <td>・原告適格、保護に値する利益説、狭義の訴えの利益について</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>国家賠償法(1)</td> <td>・代位責任説、自己責任説、公権力の行使の範囲、故意・過失、求償権について</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>国家賠償法(2)</td> <td>・公の管造物、人工公物、自然公物、高知落石事件、大東水害事件について</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>損失補償</td> <td>・奈良県ため池条例事件、完全補償説、相当補償説、国家補償の谷間について</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>公物</td> <td>・公共用物、公用物、自然公物、人工公物、公物の時効取得について</td> </tr> </table>								第1回	行政法概論	・行政の定義、法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則について	第2回	行政立法	・法規命令、委任命令、執行命令、白紙委任の禁止の原則、行政規則について	第3回	行政行為(1)	・公定力、不可争力、不可変更力、執行力、拘束力について	第4回	行政行為(2)	・無効の行政行為、取消しうべき行政行為、羈束行為、裁量行為について	第5回	行政指導	・規制行政指導、助成行政指導、調整行政指導、要綱行政について	第6回	行政上の強制執行制度	・代執行、執行罰、直接強制、行政上の強制徴収、行政サービスの提供拒否について	第7回	行政手続法	・申請に対する処分、不利益処分、行政指導、命令等を定める行為の手続について	第8回	行政不服申立て	・審査請求、異議申し立て、再審査請求、教示について	第9回	行政事件訴訟法(1)	・抗告訴訟、民衆訴訟、義務付け訴訟、差止め訴訟、取消訴訟、事情判決について	第10回	行政事件訴訟法(2)	・取消判決の効力、執行不停止の原則、内閣総理大臣の異議、処分性について	第11回	行政事件訴訟法(3)	・原告適格、保護に値する利益説、狭義の訴えの利益について	第12回	国家賠償法(1)	・代位責任説、自己責任説、公権力の行使の範囲、故意・過失、求償権について	第13回	国家賠償法(2)	・公の管造物、人工公物、自然公物、高知落石事件、大東水害事件について	第14回	損失補償	・奈良県ため池条例事件、完全補償説、相当補償説、国家補償の谷間について	第15回	公物	・公共用物、公用物、自然公物、人工公物、公物の時効取得について
第1回	行政法概論	・行政の定義、法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則について																																																			
第2回	行政立法	・法規命令、委任命令、執行命令、白紙委任の禁止の原則、行政規則について																																																			
第3回	行政行為(1)	・公定力、不可争力、不可変更力、執行力、拘束力について																																																			
第4回	行政行為(2)	・無効の行政行為、取消しうべき行政行為、羈束行為、裁量行為について																																																			
第5回	行政指導	・規制行政指導、助成行政指導、調整行政指導、要綱行政について																																																			
第6回	行政上の強制執行制度	・代執行、執行罰、直接強制、行政上の強制徴収、行政サービスの提供拒否について																																																			
第7回	行政手続法	・申請に対する処分、不利益処分、行政指導、命令等を定める行為の手続について																																																			
第8回	行政不服申立て	・審査請求、異議申し立て、再審査請求、教示について																																																			
第9回	行政事件訴訟法(1)	・抗告訴訟、民衆訴訟、義務付け訴訟、差止め訴訟、取消訴訟、事情判決について																																																			
第10回	行政事件訴訟法(2)	・取消判決の効力、執行不停止の原則、内閣総理大臣の異議、処分性について																																																			
第11回	行政事件訴訟法(3)	・原告適格、保護に値する利益説、狭義の訴えの利益について																																																			
第12回	国家賠償法(1)	・代位責任説、自己責任説、公権力の行使の範囲、故意・過失、求償権について																																																			
第13回	国家賠償法(2)	・公の管造物、人工公物、自然公物、高知落石事件、大東水害事件について																																																			
第14回	損失補償	・奈良県ため池条例事件、完全補償説、相当補償説、国家補償の谷間について																																																			
第15回	公物	・公共用物、公用物、自然公物、人工公物、公物の時効取得について																																																			
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。																																																				
成績評価の方法	筆記試験(90%) + 授業での発言内容(10%)を基準にして評価する。																																																				

授業科目	金融論		担当者	岩上 敏秀																																																	
	[履修年次]	1~3年いずれも履修可	授業外対応	いつでも対応します。メールで連絡してください。																																																	
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】金融の仕組みや、経済社会の中で果たしている役割について理解を深めます。</p> <p>【概要】モノやサービスが取引される裏では必ずお金が動きます。経済活動には、お金がスムーズに動く仕組みが不可欠です。金融とは世の中でお金がスムーズに動く仕組みのこと。本講義では、経済社会における金融の役割を学んだうえで、銀行や証券会社の役割や業務内容、株式等の証券取引や最新のフィンテック動向まで幅広いテーマを採り上げます。金融と経済のかかわりを幅広く学び、社会人として必要な金融知識を身につけます。</p> <p>スマホを活用したリアルタイム投稿システムを使って、受講者の意見を聞きながら双方向の講義を行います。</p> <p>【到達目標】金融の基本的な仕組みや用語を理解し、仕事や生活で関わる金融に関する出来事について説明できるようになる。</p>																																																				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業内で適宜紹介する</p>																																																				
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>ガイダンス： 講義の目的・進め方</td> <td>序論：金融の仕組みと役割を知ろう。なぜ金融を学ぶのか考えよう</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>資金循環： 日本の中でのお金の大きな動きについて知ろう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>家計の貯蓄と金融資産選択： 家計の消費・貯蓄・投資行動について考えよう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>企業の投資と資金調達： 企業がお金を必要とする理由やその資金調達の方法について考えよう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>金融取引の特徴と課題： 金融取引の特徴について考えよう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>金融取引と金利： 金利について学ぼう（実際に計算練習しながら学びます。計算機持参のこと）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>銀行の役割： 銀行の役割や業務内容について学ぼう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>地域金融機関の役割： 鹿銀や南銀、鹿信など地域金融機関の役割や経営環境について考えよう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>金融市場： 証券取引所など集中して金融取引を行う金融市場の役割について学ぼう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>株式会社と証券市場： そもそも株式会社とは何か、なぜ株式や債券を発行するのかについて学ぼう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>株式市場： 株価はどのように決定されるのかについて考えよう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>日本銀行と金融政策： 日本銀行の役割や金融政策について学ぼう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>金融危機と規制： バブル崩壊やリーマンショックといった金融危機について考えよう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>金融の新しい仕組み： フィンテックなど金融の新しい動きについて学ぼう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>まとめ： 講義の振り返り、期末試験に関する質疑応答、講義評価アンケート実施</td> <td></td> </tr> </table>								第1回	ガイダンス： 講義の目的・進め方	序論：金融の仕組みと役割を知ろう。なぜ金融を学ぶのか考えよう	第2回	資金循環： 日本の中でのお金の大きな動きについて知ろう		第3回	家計の貯蓄と金融資産選択： 家計の消費・貯蓄・投資行動について考えよう		第4回	企業の投資と資金調達： 企業がお金を必要とする理由やその資金調達の方法について考えよう		第5回	金融取引の特徴と課題： 金融取引の特徴について考えよう		第6回	金融取引と金利： 金利について学ぼう（実際に計算練習しながら学びます。計算機持参のこと）		第7回	銀行の役割： 銀行の役割や業務内容について学ぼう		第8回	地域金融機関の役割： 鹿銀や南銀、鹿信など地域金融機関の役割や経営環境について考えよう		第9回	金融市場： 証券取引所など集中して金融取引を行う金融市場の役割について学ぼう		第10回	株式会社と証券市場： そもそも株式会社とは何か、なぜ株式や債券を発行するのかについて学ぼう		第11回	株式市場： 株価はどのように決定されるのかについて考えよう		第12回	日本銀行と金融政策： 日本銀行の役割や金融政策について学ぼう		第13回	金融危機と規制： バブル崩壊やリーマンショックといった金融危機について考えよう		第14回	金融の新しい仕組み： フィンテックなど金融の新しい動きについて学ぼう		第15回	まとめ： 講義の振り返り、期末試験に関する質疑応答、講義評価アンケート実施	
第1回	ガイダンス： 講義の目的・進め方	序論：金融の仕組みと役割を知ろう。なぜ金融を学ぶのか考えよう																																																			
第2回	資金循環： 日本の中でのお金の大きな動きについて知ろう																																																				
第3回	家計の貯蓄と金融資産選択： 家計の消費・貯蓄・投資行動について考えよう																																																				
第4回	企業の投資と資金調達： 企業がお金を必要とする理由やその資金調達の方法について考えよう																																																				
第5回	金融取引の特徴と課題： 金融取引の特徴について考えよう																																																				
第6回	金融取引と金利： 金利について学ぼう（実際に計算練習しながら学びます。計算機持参のこと）																																																				
第7回	銀行の役割： 銀行の役割や業務内容について学ぼう																																																				
第8回	地域金融機関の役割： 鹿銀や南銀、鹿信など地域金融機関の役割や経営環境について考えよう																																																				
第9回	金融市場： 証券取引所など集中して金融取引を行う金融市場の役割について学ぼう																																																				
第10回	株式会社と証券市場： そもそも株式会社とは何か、なぜ株式や債券を発行するのかについて学ぼう																																																				
第11回	株式市場： 株価はどのように決定されるのかについて考えよう																																																				
第12回	日本銀行と金融政策： 日本銀行の役割や金融政策について学ぼう																																																				
第13回	金融危機と規制： バブル崩壊やリーマンショックといった金融危機について考えよう																																																				
第14回	金融の新しい仕組み： フィンテックなど金融の新しい動きについて学ぼう																																																				
第15回	まとめ： 講義の振り返り、期末試験に関する質疑応答、講義評価アンケート実施																																																				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します。																																																				
成績評価の方法	中間レポート(30%) + 期末試験(70%)																																																				
実務経験について	国内外の金融機関で約30年の実務経験があります。																																																				

授業科目	社会政策	担当者	近間 由幸
	[履修年次] 1,2,3年 [学期] 前期 [単位] 2単位	授業外対応	適宜対応(要予約)
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「日本型雇用システム」の下での労働・生活の全体像と社会政策の関係性について</p> <p>【概要】授業では、大企業男性正社員をモデルとして構築されてきた「日本型雇用システム」とそれに基づく社会政策について解説し、このシステムの周辺部に位置した失業者、女性、若者の格差・貧困の問題に対処するための社会政策を解説する。</p> <p>【到達目標】受講学生には、国の社会政策が自身の生活と密接にかかわっていることを理解してもらい、日本社会における格差や貧困の実態に問題意識を持ち、社会政策の方向性について自分の考えを持てるようになることを目指す。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 石畑良太郎・牧野富夫・伍賀一道編『よくわかる社会政策(第3版) 雇用と社会保障』ミネルヴァ書房</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン-日本社会の「しくみ」について</p> <p>第2回 社会政策とはなにか</p> <p>第3回 賃金と社会政策</p> <p>第4回 企業と労働組合の関係</p> <p>第5回 過労死と長時間労働</p> <p>第6回 非正規雇用とは何か</p> <p>第7回 日本社会における入社のしくみと若者支援政策</p> <p>第8回 日本型雇用システムと女性の働き方</p> <p>第9回 子育てと雇用政策</p> <p>第10回 高齢者の福祉と雇用</p> <p>第11回 働けないときにどのような支援があるのか</p> <p>第12回 社会保険と生活保護の溝</p> <p>第13回 労働市場政策の国際比較-スウェーデンモデルを事例として</p> <p>第14回 移民問題と外国人労働者</p> <p>第15回 全体のまとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート(30%) 筆記試験(70%)		

授業科目	社会思想	担当者	未定
	[履修年次] 1,2,3年 [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回</p> <p>第2回</p> <p>第3回</p> <p>第4回</p> <p>第5回</p> <p>第6回</p> <p>第7回</p> <p>第8回</p> <p>第9回</p> <p>第10回</p> <p>第11回</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p>		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			
実務経験について			

授業科目	民法		担当者	疋田 京子
	[履修年次] 1, 2, 3年	[学期] 前期	[単位] 2単位	[授業外対応] コミュニケーションカードを利用する
	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】企業の取引や労働契約、消費者契約の一般法である民法のしくみを知る</p> <p>【概要】民法は財産法と家族法に分かれますが、主に「財産法」を対象にします。明治 29 年に制定された日本の「民法（財産法）」は、大きく変わろうとしています。成人年齢の引き下げもその一つです。企業間の取引にも、個人の生活上の紛争解決にも適用される民法の全体構造を知り、それがどのように変わろうとしているのかを講義します。</p> <p>【到達目標】具体的な紛争の事例を、権利と義務の関係として捉え、法的に説得力ある主張ができるようになること。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 伊藤塾『伊藤塾の公務員試験「民法」の点数が面白いほどとれる本』KADOKAWA</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション：民法が対象とする紛争とは？</p> <p>第 2 回 民法の全体像：グローバル化時代の民法とその基本構造</p> <p>第 3 回 グループワーク</p> <p>第 4 回 民法の基本原則：法の世界の「信義誠実」「善意と悪意」</p> <p>第 5 回 権利の主体になる能力（1）：父の死後に生まれた子どもに相続権はある？</p> <p>第 6 回 権利の主体になる能力（2）：成人年齢が 18 歳になると何がどう変わる？</p> <p>第 7 回 制限行為能力者の保護と取引の安全：権利を濫用する未成年者どう向き合うか？</p> <p>第 8 回 契約の発生から効力の発生まで（1）：民法上の「代理」とは何か？</p> <p>第 9 回 契約の発生から効力の発生まで（1）：条件と期限がついた契約</p> <p>第 10 回 契約の成立要件と有効要件：契約が有効に成立するためには</p> <p>第 11 回 契約の拘束力から解放されるとき：本心と違うことを言ったとき・言われたとき</p> <p>第 12 回 民法の時効制度：権利の上に眠る者は保護しないのが民法</p> <p>第 13 回 物権の変動時期：動産の即時取得と不動産の対抗要件？</p> <p>第 14 回 不動産の権利関係と登記：公信力って何？</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	復習をしっかりとってください。			
成績評価の方法	2回のレポート（中間レポートと最終レポート）の提出（80%） 授業ごとのミニレポート（20%）			

授業科目	商法		担当者	河野 総史
	[履修年次] 1年、2年、3年	[学期] 前期	[単位] 2	[授業外対応] 講義終了後またはメールにて対応
	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>商法学のうち、会社法の基礎知識</p> <p>【概要】商法は、「市民の法」たる民法の特別法にあたり、いわば「商人の法」である。商法において学ぶ分野は多岐に渡るが本講義においては会社法の基礎知識を身に付け、社会の重要な構成要素である会社についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>株式制度と機関設計を中心に、株式会社の基礎知識を身に付けることを目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 指定しない（レジュメを配布する）</p> <p>(2) 適宜指示する</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 講義ガイダンス 民法と商法</p> <p>第 2 回 会社法総論</p> <p>第 3 回 会社の種類</p> <p>第 4 回 株式①（株式の種類等）</p> <p>第 5 回 株式②（株式の譲渡と譲渡制限）</p> <p>第 6 回 株式③（自己株式・親会社株式取得規制等）</p> <p>第 7 回 株式④（株式併合・分割・無償割当等）</p> <p>第 8 回 資金調達①（会社設立時）</p> <p>第 9 回 資金調達②（募集株式の発行等）</p> <p>第 10 回 資金調達③（株式以外の資金調達手段）</p> <p>第 11 回 機関①（機関総論）</p> <p>第 12 回 機関②（株主総会）</p> <p>第 13 回 機関③（取締役・取締役会）</p> <p>第 14 回 機関④（監査役・会計参与・会計監査人）</p> <p>第 15 回 機関⑤（指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社） 総まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	復習を徹底して、小テストに備えること			
成績評価の方法	期末テスト 80%小テスト 20% 全体で 60%以上を合格とする			

授業科目	産業心理学		担当者	岡村 俊彦	
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	講義前後に適宜対応	
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択] 選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】産業に関わる心理学を多角的に学ぶ</p> <p>【概要】産業におけるヒューマンファクター（人的要因）を多角的に考える。前半は主に労働者の心理的側面を対象とするが、人間の基本的な特性もとらえることで、コンピュータを始め、システムの評価など多方面への応用も可能となる。後半は消費者の心理を対象とし、購買行動に関する様々な要因を考えていく。簡単な心理実験、心理テストなども織り交ぜていく予定である。</p> <p>【到達目標】商品、システム、労働環境を人間の快適性から評価し、改善を考えることができるようになる。また、購買行動に関わる心理を売り手、買い手の両面から考えることができるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布、Webでも公開</p> <p>(2) なし</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明</p> <p>第2回 人間とシステムの関わり合い、精神作業：ヒューマンインターフェイスの概念と精神作業の種類と性質</p> <p>第3回 記憶と学習：記憶と学習のメカニズムと産業への応用</p> <p>第4回 ヒューマンインターフェイス1：ヒューマンインターフェイスの基本原則</p> <p>第5回 ヒューマンインターフェイス2：ヒューマンインターフェイスの事例紹介</p> <p>第6回 職場のストレス：仕事におけるストレスのメカニズムと対策</p> <p>第7回 仕事の成功と動機付け：成功、失敗の心理的要因と仕事に対するモチベーションの種類</p> <p>第8回 人間関係、労働時間：職場における人間関係、労働時間と仕事の関係</p> <p>第9回 ユニバーサルデザイン：UDの理論と実践例</p> <p>第10回 広告の心理学：広告が視聴者にあたえる影響とメカニズム</p> <p>第11回 購買心理：消費者の購買心理</p> <p>第12回 販売、印象管理：セールステクニックと印章管理</p> <p>第13回 人間のエラー：人間のエラーのメカニズムと対策</p> <p>第14回 こころをはかる生理心理学：生理的現象の測定による心理状況の推察</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	通常のレポート2回分が80%、出席・授業中のショートレポートが20%				

授業科目	会計学総論		担当者	宗田 健一	
	[履修年次]	1～3年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択] 選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】会計学の全体像を知る。</p> <p>【概要】この講義は、これから会計を学習しようと思っている人を対象としています。会計の様々な領域について学習をします。半年間で、会計学の全体的な内容を理解することができます。</p> <p>【到達目標】会計学の全体像を知る。会計学の様々な領域について学ぶ。会計の社会における役割を知る。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 上野清貴・小野正芳編著『スタートアップ会計学』（第3版）同文館出版（2022年発行予定）</p> <p>(2) 桜井久勝『財務会計講義』（第22版）中央経済社</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、会計って何？ 簿記・会計はどこからやってきたの？ 簿記・会計の歴史概要</p> <p>第2回 会計にどんな資格があるのか？ 会計の社会的役割</p> <p>第3回 会計はどう利用するの？ 財務分析の概要</p> <p>第4回 企業の成績はどうやってみるの？ 財務諸表の概要</p> <p>第5回 会計は経営にどう役立つの？ 管理会計の概要</p> <p>第6回 モノがいくらでできたかはどうやって決まるの？ 原価計算の概要</p> <p>第7回 会計情報はどうやって作られるの？ 簿記の概要</p> <p>第8回 会計制度はどうなっているの？ 財務会計の概要</p> <p>第9回 財務諸表は信頼できるの？ 財務諸表監査の概要</p> <p>第10回 会社の税金はいくらになるの？ 税務会計の概要</p> <p>第11回 グローバル経済における会計ルールってなに？ 国際会計の概要</p> <p>第12回 持続可能な社会づくりに会計はどう貢献できるの？ 環境会計・CSR会計の概要</p> <p>第13回 ボランティア活動にも儲けが必要なの？ 非営利会計の概要</p> <p>第14回 自治体の会計はどうなっているの？ 公会計の概要</p> <p>第15回 まとめ：試験範囲の提示、成績評価方法の説明、質疑応答、授業評価アンケートの実施</p>				
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。				
成績評価の方法	期末レポート（100%）				

授業科目	簿記論 I		担当者	岡村 雄輝
	[履修年次] 1, 2, 3年	[学期] 後期	[単位] 2単位	[授業外対応] 授業外対応
			[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複式簿記の基本原則を学ぶ</p> <p>【概要】日商簿記3級レベルのテキスト、ワークブックを使用して複式簿記による記帳手続を解説し、問題演習に取り組みます。簿記力を着実に養い、より高度な会計を学ぶためには、問題演習の反復を通じた複式簿記の基本原則の理解が肝要です。勤勉な学習姿勢が望まれます。※簿記論IIと連続して講義を展開しますので、併せて受講してください。</p> <p>【到達目標】簿記上の取引を仕訳・転記する手続から、決算本手続までの概要を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 渡部裕互, 片山寛, 北村敬子 (編)『新検定 簿記講義3級 商業簿記』『新検定 簿記ワークブック』(令和4年版), 中央経済社。</p> <p>(2) 伊藤龍峰ほか『基本簿記原理』(第2版), 中央経済社。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：履修登録の確認、講義概要の説明</p> <p>第2回 仕訳と転記：勘定、取引の意義と種類、取引8要素と結合関係</p> <p>第3回 仕訳帳と元帳：帳簿の種類、仕訳帳への記入、総勘定元帳への転記</p> <p>第4回 決算：帳簿の締切りと財務諸表の作成、決算手続と精算表</p> <p>第5回 現金と預金：現金勘定と現金出納帳、現金過不足、当座預金と当座借越</p> <p>第6回 繰越商品・仕入・売上：3分法、諸掛と返品</p> <p>第7回 売掛金と買掛金：売掛金と買掛金の意義、人名勘定、売掛金と元帳と買掛金元帳</p> <p>第8回 その他の債権と債務：貸付金と借入金、未収入金と未払金、立替金と預り金</p> <p>第9回 受取手形と支払手形：手形の振出しと受入れ、受取手形記入帳と支払手形記入帳、電子記録債権と債務</p> <p>第10回 貸倒損失と貸倒引当金：貸倒れとは？、貸倒引当金の設定</p> <p>第11回 収益と費用：収益・費用の未収・未払いと前受け・前払い</p> <p>第12回 税金：租税公課、法人税、住民税及び事業税、消費税</p> <p>第13回 財務諸表：決算手続、試算表作成、棚卸表の作成と決算整理事項</p> <p>第14回 総合問題：問題演習と解説①</p> <p>第15回 総合問題：問題演習と解説③</p>			
授業外学習(予習・復習)	毎回復習をすること。継続的な学習なしに簿記はできるようになりません。			
成績評価の方法	期末テスト80%、小テスト20%			

授業科目	経営学総論		担当者	竹中 啓之
	[履修年次] 1,2,3年いずれでも履修可	[学期] 前期	[単位] 2単位	[授業外対応] 授業外対応
			[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営学全般について、幅広く理解し、経営学の特徴的な考え方を習得する。</p> <p>【概要】この講義では、これから経営学を学ぶにあたって、必要と思われる知識や考え方について説明する。まず、経営学が取り扱う様々なテーマをできるだけ幅広く取り上げ、企業や組織の仕組みを理解する。また、単なる知識の習得だけでなく、経営学が持っている特徴的な考え方も説明し、それに触れることで、その他の経営学関連の科目の修得の手助けになることを目指す。さらに、経営学が取り扱うテーマは、企業だけではなく、様々な場面で役立てることができる、実践的な学問であることも説明していくことにする。</p> <p>【到達目標】経営学に関する基礎的な知識を習得する。経営学と社会との関わりを理解する。そのほかの経営学関連の科目を履修する際に手助けとなるような力を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に配布するプリント</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第2回 経営学と経済学の違い：経営学と経済学の最も特徴的な違いについて説明する。</p> <p>第3回 経営学の発展と必要性：経営学がいかに社会にとって必要とされてきたかを理解する。</p> <p>第4回 企業の種類について：企業の種類とそれぞれの特徴について考える。</p> <p>第5回 企業の目的と役割について：企業が持っている目的と、果たすべき役割について理解する。</p> <p>第6回 人と企業との関係について(1)：企業で働く従業員の立場から、企業との関係を考える。</p> <p>第7回 人と企業との関係について(2)：株主(出資者)としての立場から、企業との関係を考える。</p> <p>第8回 これまでのまとめと補足説明、及び中間テスト(予定)</p> <p>第9回 企業における4つの経営資源(モノ)：主にマーケティングについて説明する。</p> <p>第10回 企業における4つの経営資源(情報)：企業における情報の種類やその活用方法について説明する。</p> <p>第11回 日本の経営を考える：年功主義や終身雇用、そして成果主義・能力主義などについて考える。</p> <p>第12回 組織の基本的な仕組みについて：基本的な組織構造を理解し、その特徴を知る。</p> <p>第13回 企業統治について：株式会社の意思決定の仕組みについて説明する。</p> <p>第14回 経営戦略を考える：経営戦略の考え方について説明する。</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	期末筆記試験(70%)、中間レポートもしくは小テスト(30%)(予定) 詳細は1回目の講義で説明します。			

授業科目	情報科学概論		担当者	岡村 俊彦
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 コンピュータやネットワークなど情報科学 (ICT) 全般の基礎知識を学ぶ</p> <p>【概要】 コンピュータ (ハードウェア, ソフトウェア, 周辺機器) やネットワークの仕組みを知り, 現代社会においてどのような役割があり, どのような問題点があるかを知る。結果として, 効果的かつ適切な IT 活用が可能となり, トラブル解決もできるようになる。また, ネットワークを安全に使うためのルール, マナーを学ぶ。また, 授業の 3 分の 1 程度の時間を使い, IT に関する学生からの質問に対する解説をおこなう。</p> <p>【到達目標】 ・初心者向け情報関連雑誌を 80% 以上理解できる ・初心者に対して, パソコンやネットワークの安全, 便利な運用に関する簡単なアドバイスができる ・調子の悪いパソコンを直す</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布, Web でも公開</p> <p>(2) 初心者向け情報関連雑誌</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 概要説明</p> <p>第 2 回 ハードウェアとソフトウェア: ハードとソフトの違いと役割</p> <p>第 3 回 パソコンの中身: パソコン内部の部品とその役割</p> <p>第 4 回 単位と容量と速度: 情報処理や通信に関わる単位と容量, 速度</p> <p>第 5 回 インターネットの仕組み: インターネットとネットワークの仕組み</p> <p>第 6 回 電子メールの使い方: 電子メールの仕組みと正しい使用法</p> <p>第 7 回 IT セキュリティ: マルウェアとセキュリティ対策</p> <p>第 8 回 インターフェイス: インターフェイスの種類と特性</p> <p>第 9 回 周辺機器 1: モニタ, 光学ドライブなど周辺機器の役割, 仕組み</p> <p>第 10 回 周辺機器 2: プリンタ, デジカメなど周辺機器の役割, 仕組み</p> <p>第 11 回 ソフトの分類: ソフトウェアの分類と正しい使用法</p> <p>第 12 回 クラウド, ビッグデータ, I o T: 新たなインターネットのトレンドと今後の展開</p> <p>第 13 回 スペックの見方: パソコン, 周辺機器のスペック (仕様) の見方</p> <p>第 14 回 AI の活用とインターネットの国際比較: AI の仕組み, 活用例とインターネット利用の国際比較</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習 (予習・復習)	まとめ			
成績評価の方法	通常のレポート 2 回分が 80%, 出席・授業中のショートレポートが 20%			

授業科目	文書作成実習 (第二部)		担当者	永仮 ゆかり
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>「Microsoft Word」を活用した、実践的なビジネス文書の作成能力の習得</p> <p>【概要】</p> <p>「Microsoft Word」を活用した実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商 PC 検定 (文書作成 3 級) 対策を行い、資格取得を目指す。</p> <p>【到達目標】</p> <p>実践的なビジネス文書の作成能力の習得 (日商 PC 検定文書作成 3 級合格レベルの技能の習得)</p> <p>*後期から履修する場合は、前期「情報リテラシー I」授業内容程度の技能を習得していることを前提とする</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2) 富士通エフ・オー・エム (株) 『よくわかる Microsoft Word 2019 基礎』 FOM 出版 ほか授業にて紹介する</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 前期の復習 : 概要説明、前期の復習 (基本的なビジネス文書の作成)</p> <p>第 2 回 検定対策 (3 級) : 社外文書の作成 (案内状)、知識問題 (共通分野)</p> <p>第 3 回 検定対策 (3 級) : 課題文書作成 1 (表を利用した文書の作成)、知識問題 (共通分野)</p> <p>第 4 回 検定対策 (3 級) : 図形を利用した文書の作成、知識問題 (共通分野)</p> <p>第 5 回 検定対策 (3 級) : 報告書の作成 (計算式を含む文書)、図形の補足、知識問題 (共通分野)</p> <p>第 6 回 検定対策 (3 級) : 通知状の作成、知識問題 (共通分野)</p> <p>第 7 回 検定対策 (3 級) : 課題文書作成 2 (文書作成 3 級実技練習問題)、知識問題 (共通分野)</p> <p>第 8 回 検定対策 (3 級) : 文書作成 3 級検定模擬問題演習、知識問題 (共通分野)</p> <p>第 9 回 検定対策 (3 級) : 文書作成 3 級検定模擬問題演習</p> <p>第 10 回 Excel データの利用 : Excel データ (表、グラフ) の文書への取り込み</p> <p>第 11 回 文書の編集 : いろいろな応用機能 (スタイル、セクション区切りの挿入、文書の挿入など)</p> <p>第 12 回 報告書の作成 : 課題文書作成 3 (Excel データ・テキストファイルの利用、書式のコピーなど)</p> <p>第 13 回 稟議書の作成 : 稟議書の作成 (ユーザー定義の段落番号、表の編集など)</p> <p>第 14 回 議事録の作成 : 議事録の作成 (テンプレートの利用、スタイルの設定、セクション区切りなど)</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習 (予習・復習)	知識問題の予習・復習、「Microsoft Word」操作の復習など適宜指示			
成績評価の方法	期末試験 (知識科目 20%+実技科目 50%) +授業中に実施する課題 (30%)			
実務経験について	OA インストラクター、職業訓練校パソコン実習科目の講師、市民講座パソコン講座の講師			

授業科目	統計学		担当者	倉重 賢治
	[履修年次] 1, 2, 3年		授業外対応	適宜対応
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 基本的な統計解析を学ぶ</p> <p>【概要】 現在、情報技術を有効に活用してデータ収集を行い、そのデータの分布や性質を明らかにすることが重要視されている。この講義では、そのためのツールとしての基本的な統計解析を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的なデータ処理を行う</li> <li>・相関関係について理解する</li> <li>・検定について理解する</li> </ul>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 木下栄蔵, 『入門統計解析』, 講談社サイエンティフィク</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 序論：統計学とは</p> <p>第 2回 データの基本処理：平均値、度数分布</p> <p>第 3回 データの基本処理：標準正規分布</p> <p>第 4回 データの基本処理：正規分布</p> <p>第 5回 データの基本処理：正規分布と偏差値</p> <p>第 6回 データの基本処理：確率分布</p> <p>第 7回 統計解析：相関係数</p> <p>第 8回 統計解析：回帰直線</p> <p>第 9回 統計解析：カイ2乗検定</p> <p>第 10回 統計解析：平均値の推定</p> <p>第 11回 統計解析：平均値の検定</p> <p>第 12回 統計解析：比率の推定と検定</p> <p>第 13回 統計解析：ベイズ統計学</p> <p>第 14回 統計解析：分散分析</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	期末試験 (100%)			

授業科目	応用文書処理		担当者	岡村 俊彦
	[履修年次] 2,3年		授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期] 前期	[単位] 1単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複数のアプリケーションを有機的に活用しながら、ネットワークにも対応したドキュメント作成を学ぶ</p> <p>【概要】 1) 自己紹介文書作成：ワープロソフトを核に、グラフや写真などを含んだ自己紹介文書を作成する。 2) ホームページ作成：自分なりの大学のホームページを作成し、公開する。 3) 提案書作成：インターネット検索と表計算ソフトを使い、架空の提案書を作成する。</p> <p>【到達目標】初めて扱うソフトでもすぐに使えるようになる ・わかりやすいドキュメントを作成する ・インターネット上のルールやマナーを身に付ける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Webで公開</p> <p>(2) なし</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 概要説明</p> <p>第 2回 自己紹介文書作成1：ワープロを使ったベース文書の作成</p> <p>第 3回 自己紹介文書作成2：表計算ソフトを使ったグラフ作成とベース文書の結合</p> <p>第 4回 自己紹介文書作成3：写真、図の取り扱いとベース文書の結合</p> <p>第 5回 自己紹介文書作成4：仕上げ。印刷設定のコツ</p> <p>第 6回 ホームページ作成1：HTML 概念の復習。USB メモリへのソフトの導入</p> <p>第 7回 ホームページ作成2：課題設定とページ作成</p> <p>第 8回 ホームページ作成3：資料収集とページ作成</p> <p>第 9回 ホームページ作成4：ページ公開</p> <p>第 10回 提案書作成1：インターネットによる費用情報検索</p> <p>第 11回 提案書作成2：表計算ソフトを使った自動計算書</p> <p>第 12回 提案書作成3：プレゼン資料の作成</p> <p>第 13回 提案書作成4：仕上げ、データ送信のコツ</p> <p>第 14回 提案書作成5：プレゼンと評価</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	まとめ			
成績評価の方法	レポート (3つの課題を総合的に評価)			

授業科目	PCデータ活用		担当者	口脇 淳子				
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用した基本操作の習得と活用</p> <p>【概要】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、まずは作表やグラフ化・業務データの分析など実務に必要な機能・操作法を習得する。さらに各機能の特徴と活用法を目的に応じて使い分けができる応用力を身につけられる技術を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 表計算ソフト「Microsoft Excel」の基本操作を確実に習得する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 実教出版編集部 30時間でマスター Excel2019 (Windows10 対応) 実教出版株式会社</p> <p>(2)</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 習熟度確認アンケート Excelの起動と画面の確認 文字入力の確認</p> <p>第 2回 簡単な表作成とグラフ化: Excelの基本的な流れを確認</p> <p>第 3回 編集機能を活用した見やすい表の作成: 行・列の操作・計算式や関数(合計・平均)の活用</p> <p>第 4回 編集機能を活用した見やすい表の作成: 体裁の整え方・罫線</p> <p>第 5回 データ処理: 関数の利用(カウント・端数処理など)</p> <p>第 6回 データ処理: 関数の利用(条件の判定・論理関数など)</p> <p>第 7回 データ処理: 関数の利用(順位づけ・VLOOKUPなど)</p> <p>第 8回 各関数を利用した実習問題(小テスト)</p> <p>第 9回 棒グラフ・折れ線グラフの作成とさまざまな設定(軸ラベル・データラベル・目盛りなど)</p> <p>第 10回 円グラフ・3-Dグラフの作成とさまざまな設定(データ範囲の変更・系列の書式など)</p> <p>第 11回 複合グラフ・ドーナツグラフ・絵グラフの作成(系列の設定・テキストボックスの利用・画像の利用など)</p> <p>第 12回 データベース入門: データベース作成上の各機能</p> <p>第 13回 データの集計(並べ替え・抽出 ほか)</p> <p>第 14回 データの集計(ピボットテーブル)</p> <p>第 15回 前期のまとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	各回の授業後、テキスト内の練習問題を復習し、次回授業時に提出もしくは確認を行う。							
成績評価の方法	期末試験(70%) + 小テスト(20%) + 授業で課せられる課題の提出状況(10%)							
実務経験について	企業、個人への講習会講師							

授業科目	PCデータ活用実習		担当者	口脇 淳子				
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認				
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]	選択	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用したビジネス現場で活用できる実践的な知識と技術の習得</p> <p>【概要】 前期習得した内容が確実に活用できるよう、さまざまな実践問題に取り組む。また、実務に必要な業務知識も身につけられるようにする。</p> <p>【到達目標】 知識と技術の習得を日商PC検定試験(データ活用)の3級資格取得で確認 ☆ 後期から履修する場合は、前期授業内容程度の技術を習得していることを前提とする</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 実教出版編集部 30時間でマスター Excel2019 (Windows10 対応) 実教出版株式会社</p> <p>(2) プリント</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 前期授業の復習 知識科目問題</p> <p>第 2回 検定対策問題: 構成比を求める問題 知識科目問題</p> <p>第 3回 検定対策問題: データの追加入力がある問題 知識科目問題</p> <p>第 4回 検定対策問題: ABC分析 知識科目問題</p> <p>第 5回 検定対策問題: 簿記の要素を含んだ問題 知識科目問題</p> <p>第 6回 検定対策問題: 利益率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第 7回 検定対策問題: データの集計を取る問題 知識科目問題</p> <p>第 8回 検定対策問題: 達成率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第 9回 検定対策問題小テスト(実技問題・知識科目問題)</p> <p>第 10回 検定対策問題: 伸び率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第 11回 検定対策問題: データを参照する問題 知識科目問題</p> <p>第 12回 検定対策問題: 集計データから請求書を作成する問題 知識科目問題</p> <p>第 13回 検定対策問題: 別シートのデータから計算式を設定する問題 知識科目問題</p> <p>第 14回 検定対策問題: 集計データをグループ化する問題 知識科目問題</p> <p>第 15回 後期のまとめ 知識科目問題</p>							
授業外学習(予習・復習)	授業後、同じ問題を、時間を計って解いてみる							
成績評価の方法	期末試験(70%) + 小テスト(20%) + 授業で課せられる課題の提出状況(10%)							
実務経験について	企業、個人への講習会講師							

授業科目	PCアプリケーション実習 (A)	担当者	上野 祐子
	[履修年次] 1年	授業外対応	講義終了時、適宜対応 (要予約)
	[学期] 後期 [単位] 1単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】様々なアプリケーションソフトを使ってみよう</p> <p>【概要】事務系の職に就いても、プログラミングやPDF編集、データベースの仕事をする機会が増えてきている。また、様々な機能が搭載された使い勝手の良いアプリケーションソフトは多数存在するが、その習得には非常に時間がかかる。そこで、この授業では、学校やビジネスでよく使用されている代表的なアプリケーションソフトの基本的な操作方法を学ぶ。なお、ホームページ作成については、その仕組みを理解して欲しいため、専用のソフトではなくメモ帳を使用する。</p> <p>【到達目標】各アプリケーションで課題を完成させる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、ホームページ作成 (HTML: 見出し、画像、箇条書き、ハイパーリンク、表)</p> <p>第2回 ホームページ作成2 (HTML: 段落、水平線、地図、動画)</p> <p>第3回 ホームページ作成3 (CSS: Webページのデザイン設定、鑑賞会) 第1回課題</p> <p>第4回 プログラミング (Scratch)</p> <p>第5回 プログラミング2 (Scratch)</p> <p>第6回 プログラミング3 (言語は受講者の希望により決定する) 第2回課題</p> <p>第7回 動画編集 (フォト: 起動、トリミング、テキスト入りビデオの作成、素材の収集)</p> <p>第8回 動画編集2 (フォト: 描画、クリップの速度、音楽、3D効果)</p> <p>第9回 動画編集3 (フォト: タイトル、鑑賞会) 第3回課題</p> <p>第10回 データベース (Excelのデータベース機能)</p> <p>第11回 データベース2 (Microsoft Access: テーブル、クエリ)</p> <p>第12回 データベース3 (Microsoft Access: テーブル、クエリ、フォーム) 第4回課題</p> <p>第13回 PDF編集 (Adobe Acrobat Reader: PDFの作成と閲覧)</p> <p>第14回 PDF編集2 (Adobe Acrobat Reader: PDF編集)</p> <p>第15回 PDF編集3 (Adobe Acrobat Pro: 画像やファイルでPDF資料作成、鑑賞会) 第5回課題</p>		
授業外学習(予習・復習)	興味を持って予習し、授業内容の復習をすること。		
成績評価の方法	5回の課題 (80%) と期末レポート (20%) の総合評価		
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア、中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。		

授業科目	PCアプリケーション実習 (B)	担当者	上野 祐子
	[履修年次] 1年	授業外対応	講義終了時、適宜対応 (要予約)
	[学期] 後期 [単位] 1単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】様々なアプリケーションソフトを使ってみよう</p> <p>【概要】事務系の職に就いても、プログラミングやPDF編集、データベースの仕事をする機会が増えてきている。また、様々な機能が搭載された使い勝手の良いアプリケーションソフトは多数存在するが、その習得には非常に時間がかかる。そこで、この授業では、学校やビジネスでよく使用されている代表的なアプリケーションソフトの基本的な操作方法を学ぶ。なお、ホームページ作成については、その仕組みを理解して欲しいため、専用のソフトではなくメモ帳を使用する。</p> <p>【到達目標】各アプリケーションで課題を完成させる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、ホームページ作成 (HTML: 見出し、画像、箇条書き、ハイパーリンク、表)</p> <p>第2回 ホームページ作成2 (HTML: 段落、水平線、地図、動画)</p> <p>第3回 ホームページ作成3 (CSS: Webページのデザイン設定、鑑賞会) 第1回課題</p> <p>第4回 プログラミング (Scratch)</p> <p>第5回 プログラミング2 (Scratch)</p> <p>第6回 プログラミング3 (言語は受講者の希望により決定する) 第2回課題</p> <p>第7回 動画編集 (フォト: 起動、トリミング、テキスト入りビデオの作成、素材の収集)</p> <p>第8回 動画編集2 (フォト: 描画、クリップの速度、音楽、3D効果)</p> <p>第9回 動画編集3 (フォト: タイトル、鑑賞会) 第3回課題</p> <p>第10回 データベース (Excelのデータベース機能)</p> <p>第11回 データベース2 (Microsoft Access: テーブル、クエリ)</p> <p>第12回 データベース3 (Microsoft Access: テーブル、クエリ、フォーム) 第4回課題</p> <p>第13回 PDF編集 (Adobe Acrobat Reader: PDFの作成と閲覧)</p> <p>第14回 PDF編集2 (Adobe Acrobat Reader: PDF編集)</p> <p>第15回 PDF編集3 (Adobe Acrobat Pro: 画像やファイルでPDF資料作成、鑑賞会) 第5回課題</p>		
授業外学習(予習・復習)	興味を持って予習し、授業内容の復習をすること。		
成績評価の方法	5回の課題 (80%) と期末レポート (20%) の総合評価		
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア、中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。		

授業科目	日本経済論	担当者	船津 潤
	[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	講義前後, それ以外にも随時(日時を調整することがあるかもしれませんが, 遠慮なく声をかけてください)
	[必修/選択]	選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本の明治維新以降の経済・経済政策の動きとその背景について理解を深めること</p> <p>【概要】明治維新から現在までの日本の経済と経済政策の動向について, 特に産業政策, そして構造改革とアベノミクスに焦点を当てながら講義します。また, 過去が現在とどうつながっているかという歴史的推移とともに, 石油危機, プラザ合意, 日米構造協議, そしてグローバル化といった海外からの影響を強く意識しながら講義を進めます。</p> <p>【到達目標】①明治維新以降の日本の経済と経済政策の歴史的推移について理解し, 説明できるようになること ②日本経済の歴史と海外とのつながりを踏まえて, 日本経済の現状と課題について自分なりの見解が持てるようになること</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 三和良一『概説日本経済史 近現代 (第3版)』東京大学出版会 内閣府『年次経済財政報告 各年度版』</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目標, 評価基準等の説明</p> <p>第2回 日本の産業政策の歴史 戦前(1)：資本主義社会とはどんな社会か等</p> <p>第3回 日本の産業政策の歴史 戦前(2)：明治維新の意義, その後の産業構造の変化等</p> <p>第4回 敗戦直後の日本経済：敗戦直後の状況, 傾斜生産方式, 1950年代前半の産業政策等</p> <p>第5回 高度成長の開始：高度成長初期の産業政策と経済状況・産業構造等</p> <p>第6回 行政指導：勸告操短, 企業の反発等</p> <p>第7回 開放経済体制への移行：IMF8 条国への移行, 産業再編等</p> <p>第8回 1970年代の日本経済：2度のオイル・ショック, 構造不況業種への対応, 知識集約化・高付加価値化への動き等</p> <p>第9回 企業集団とその変化：戦後の企業集団の特徴, グループ内の結び付き, 現在の状況等</p> <p>第10回 1980年代以降の日本経済：対米貿易摩擦, 日米構造協議等</p> <p>第11回 現在の産業政策：産業競争力強化法, 現在の産業政策の特徴等</p> <p>第12回 グローバル化と構造改革への動き：プラザ合意と国際協調, バブル崩壊後の動向等</p> <p>第13回 構造改革：構造改革の特徴・本質等</p> <p>第14回 構造改革とアベノミクス：構造改革下の福祉改革の内容と特徴, アベノミクスとの比較等</p> <p>第15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明, 試験についての説明等</p>		
授業外学習(予習・復習)	<p>普段から日本経済関連のニュース(できれば外国のメディアを含む複数)に注目すること, 特に講義後に関連する事項についてインターネットや文献等を通して調べ, 検討することを勧めます(これらは公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも非常に有効です)。そして, 講義内容に直接関係しなくても, 聞きたいことが出てきたら, 遠慮なく質問してください。</p>		
成績評価の方法	<p>筆記試験(80%), 小テスト(20%)を基本とし, アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。</p>		

授業科目	財政学	担当者	船津 潤
	[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可	授業外対応	講義前後, それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが, 遠慮なく声をかけてください)
	[学期] 後期 [単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】財政に関する基本的な概念や理論, 日本の財政の基礎的な制度について, 内容, 実態, 特徴, 課題に関する理解を深めること</p> <p>【概要】まずは財政に関する基本的な概念や理論について講義します。その上で, それらを踏まえて財政の基礎的な制度に関する講義を行います。そこでは, 財政民主主義という財政制度の根幹, 経済における公共部門と民間部門の関係, 歴史的推移, そしてグローバル化の影響を強く意識しながら講義を進めます。この講義を受講することで, 経済学等で学んだマクロ経済学の理論等が実際にどのように政府の政策に活用されているのかも理解できると思います。また, 財政は, 政治と経済の「つなぎ目」の役割を担っていますので, 他の科目では触れることが少ない経済に対する政治の影響に関しても見識を高めることができるはずです。</p> <p>【到達目標】①財政の基礎的な制度について理解し, 説明できるようになること ②実際の政府の活動について分析・評価できるようになること ③マクロ経済学の理論等がどのように政策に活用されているのかを理解すること ④財政の影響を踏まえて, 経済・社会の動向を的確に把握できるようになること</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 金澤史男編著『財政学』有斐閣(2005年) 植田和弘・諸富徹編著『テキストブック現代財政学』有斐閣(2016年) 佐々木伯朗編著『財政学』有斐閣(2019年) 廣光俊昭編著『図説 日本の財政 各年度版』東洋経済新報社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス: 講義の目標, 評価基準等の説明</p> <p>第2回 財政(1): 財政の定義, 財政学の特徴, 政府に対する評価の揺れ等</p> <p>第3回 財政(2): 市場の失敗, 財政民主主義と制度化に必要な原則等</p> <p>第4回 予算(1): 定義, 役割, 政府と議会の役割, 予算原則等</p> <p>第5回 予算(2): 予算の種類, 特別会計と「埋蔵金」, 改革の方向等</p> <p>第6回 経費(1): 定義, 主要な分類, 経費膨張の法則, 転位効果等</p> <p>第7回 経費(2): 小さな政府論とサブライサイド・エコノミクス等</p> <p>第8回 租税(1): 定義, 租税の根拠, 代表的な租税原則等</p> <p>第9回 租税(2): 公平の基準, 望ましい税制とは等</p> <p>第10回 公債(1): 定義, 民間債務・租税との対比, 公債の種類等</p> <p>第11回 公債(2): 日本の国債発行における原則, 制度, 「ギリシャよりひどい」は本当か等</p> <p>第12回 財政投融资: 定義, 運用対象, 批判, 2001年度の改革, 今後の展望等</p> <p>第13回 財政の国際化: 国際公共財, グローバル化と国際的財政移転等</p> <p>第14回 財政改革を考える: 社会の変化と財政, 財政危機とは, 財政改革で求められる視点等</p> <p>第15回 まとめ: 講義を振り返りつつポイントの説明, 試験についての説明等</p>		
授業外学習(予習・復習)	<p>講義の前後に財務省のサイト等で関連事項について調べて検討すること, 普段から経済・財政関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディアを含む複数, 加えて日本関連だけでなく, 諸外国関連のニュースも)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも非常に有効です)。そして, 講義内容に直接関係しなくても, 聞きたいことが出てきたら, 遠慮なく質問してください。</p>		
成績評価の方法	<p>筆記試験(80%), 小テスト(20%)を基本とし, アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。</p>		

授業科目	農業経済論		担当者	岡田 登	
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	後期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】表面化している食料・農業・農村の問題の背景を理解する。</p> <p>【概要】世界農業の形成過程及び日本農業の展開を把握した上で、生産、組織、流通等の仕組みを学び、現在起こっている農業経済現象とその原因を理解する。</p> <p>【到達目標】食料・農業・農村の問題の背景を理解し、日本農業の今後の展望と農業のあり方を説明できる能力を身につける。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに：講義の目標、食料・農業・農村の問題提起、鹿児島島の農村景観</p> <p>第2回 農業の基礎：基本知識</p> <p>第3回 世界農業の形成過程：農業の起源、農業形態の発展、雑草対策、植民地政策、大規模穀物生産</p> <p>第4回 日本農業の展開（1）：稲作の普及、近郊農業、明治期から戦前までの展開</p> <p>第5回 日本農業の展開（2）：経済成長期、農業基本法と産地形成、食糧管理法と農地法</p> <p>第6回 日本農業の展開（3）食糧管理法から食糧法、米の生産調整、農地法改正、食料・農業・農村基本法への転換</p> <p>第7回 農業保護政策：国内市場、農産物貿易</p> <p>第8回 農業のグローバル化：フードレジーム、日本における農産物自由化</p> <p>第9回 農産物流通の仕組み：農業協同組合、市場流通</p> <p>第10回 農業と関連産業：アグリビジネス</p> <p>第11回 農業法人の設立：農地法改正と農業法人化、農業経営基盤強化促進法</p> <p>第12回 農産物の高付加価値化とブランド化：有機農産物、伝統野菜、地理的表示、食の安全性、六次産業化、農商工連携</p> <p>第13回 農村空間の商品化：観光農園、農産物直売所、地産地消</p> <p>第14回 都市の農村化：都市農業、市民農園、体験農園、自家菜園、マルシェ</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	復習をして次回の講義を受けること				
成績評価の方法	授業時に実施するレポート(40%)＋期末試験(60%)				
実務経験について	自治体の元職員				

授業科目	ファイナンス論		担当者	岩上 敏秀	
	[履修年次]	1～3年いずれも履修可	授業外対応	いつでも対応します。メールで連絡してください。	
	[学期]	後期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】資産運用のための投資商品や投資手法について実践的な知識を学びます。</p> <p>【概要】私たちが働いて生涯で得られる所得は限られています。限られた生涯所得を運用し、上手に資産形成しながら将来に備えていく必要があります。本講義は、債券や株式などさまざまな投資商品について学んだ上で、リスクを抑えながら一定の効果を生む投資手法について考えていきます。スマホを活用したリアルタイム投稿システムを使って、受講者と双方向コミュニケーションしながら講義を進めます。</p> <p>【到達目標】・証券投資や資産運用に関するニュースを理解できるようになる。 ・各種投資商品の内容とリスクを理解し、自分に最適な投資商品を選べるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業内で適宜紹介する</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的・進め方 序論：資産形成が必要な理由</p> <p>第2回 金利：金利の仕組み、単利と複利、ローン支払い額計算</p> <p>第3回 貨幣の時間的価値：キャッシュフロー、現在値と将来価値、割引率</p> <p>第4回 債券(1)：債券とは、債券市場、債券取引</p> <p>第5回 債券(2)：債券の価格と利回り、債券のリスク</p> <p>第6回 株式(1)：株式とは、株式市場、株式取引</p> <p>第7回 株式(2)：株式の投資尺度、株価評価モデル、株式のリスク</p> <p>第8回 株式(3)：株式取引の事例</p> <p>第9回 証券投資と資産運用：資産運用の目的、長期・積立・分散投資の効果</p> <p>第10回 リスクとリターン：期待収益、リスクの測定</p> <p>第11回 ポートフォリオ理論(1)：安全資産とリスク資産、投資家選好</p> <p>第12回 ポートフォリオ理論(2)：分散投資の効果</p> <p>第13回 さまざまな投資商品(1)：投資信託、ETF</p> <p>第14回 さまざまな投資商品(2)：金、FX、海外投資(外国株式・債券・投信)、不動産</p> <p>第15回 まとめ：講義の振り返り、期末試験に関する質疑応答、講義評価アンケート実施</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します。				
成績評価の方法	中間レポート(30%)＋期末試験(70%)				
実務経験について	国内外の金融機関で約30年の実務経験があります。				

授業科目	経済学史		担当者	カムチャイ ライサミ		
	[履修年次]	1年、2年、3年	授業外対応	講義終了時		
	[学期]	前期	[単位]	2	[授業形態]	講義
			[必修/選択]	選択		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経済学史入門</p> <p>経済学説の史的展開をやさしく解説する。</p> <p>【概要】経済学の時代的要請と経済学者の人となり</p> <p>経済学の黎明期前後（17世紀頃）から現代経済学（20世紀初頭）までの主要学説と経済学者を中心に紹介する。</p> <p>【到達目標】経済学の歴史を知ることによって経済学をより深く理解できること</p> <p>経済学の歴史を学んでその意義と限界を知ることによって正しい見方を身につける。</p>					
(1)テキスト	(1) テキストなし。毎回プリントを配布する。					
(2)参考文献	(2) 必要に応じて、その都度指示する。					
授業スケジュール	<p>第1回 経済学史の範囲と方法：経済学史年表</p> <p>第2回 重商主義の経済思想：マリーンズ、マン、スチュアート</p> <p>第3回 重農主義の経済思想：ケネー、チュルゴー</p> <p>第4回 過渡期の経済思想：ペティ、ロック、マンデヴィル、カンティロン、ヒューム、</p> <p>第5回 古典学派の生成：スミス</p> <p>第6回 古典学派の発展：マルサス、リカード</p> <p>第7回 古典学派の完成：セイ、シスモンディ、シーニア、ミル</p> <p>第8回 ドイツ歴史学派：リスト、ヒルデブラント、シュモラー、ウェーバー</p> <p>第9回 マルクス学派：マルクス</p> <p>第10回 限界革命の先駆者達：チューネン、ゴッセン、デュピュイ</p> <p>第11回 限界分析の経済学：クールノー、ジェヴォンズ</p> <p>第12回 オーストリア学派：メンガー、ウィーザー、バウム＝バヴェルク</p> <p>第13回 ローザンヌ学派：ワルラス、パレート</p> <p>第14回 ケンブリッジ学派：マーシャル、ピグウ</p> <p>第15回 ケインズ革命：ケインズ</p>					
授業外学習(予習・復習)	授業前後に必ず合計で4時間程度の予習・復習を行うこと。					
成績評価の方法	期末筆記試験（100%）					
実務経験について	なし。					

授業科目	経済学特講		担当者	山口 祐司		
	[履修年次]	1、2、3年	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。		
	[学期]	後期	[単位]	2	[授業形態]	講義
			[必修/選択]	選択		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>アメリカ経済とアメリカを中心とした国際経済関係の歴史を通して、経済学上のキーワードを学んでいきます。</p> <p>【概要】</p> <p>アメリカの力の相対的低下にもかかわらずアメリカに学ぶ意義（第1回）。19世紀から20世紀初頭にかけてのアメリカ経済の勃興（第2～3回）。1929年に始まる大恐慌の原因と結果（第4～6回）。1950～70年代にかけて、アメリカが主導する資本主義陣営の高度経済成長とその限界（第7～9回）。1980年代以降の、「新自由主義」と呼ばれる改革をテコにした新たな経済成長の仕組み（第10～12回）。新自由主義がアメリカにもたらした問題と今後のゆくえ（第13～14回）。</p> <p>経済を考える上でも、科学・技術や文化、政治など、同時代の社会の動きを知ることは重要である。映像資料等を利用してそうした知識も補っていく。</p> <p>【到達目標】</p> <p>アメリカ経済の歴史から特質を学ぶこと。良い意味でも悪い意味でも資本主義経済の最先端をいくアメリカに学ぶことで、日本を含む世界が直面する経済・社会の問題に取り組む力をつけること。</p>					
(1)テキスト	(1) プリント					
(2)参考文献	(2) 講義時に提示					
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、なぜいまアメリカ経済を学ぶか</p> <p>第2回 アメリカ経済の勃興（1）大量生産体制</p> <p>第3回 アメリカ経済の勃興（2）債務国から世界最大の債権国へ</p> <p>第4回 大恐慌と第二次世界大戦（1）狂騒の1920年代</p> <p>第5回 大恐慌と第二次世界大戦（2）保護貿易と世界恐慌</p> <p>第6回 大恐慌と第二次世界大戦（3）ニューディールと戦争</p> <p>第7回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（1）ブレトンウッズ体制と戦後国際経済秩序</p> <p>第8回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（2）ケインズ政策と持続的経済成長</p> <p>第9回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（3）ドル危機と石油危機</p> <p>第10回 新自由主義の興隆（1）レーガノミクスと金融化</p> <p>第11回 新自由主義の興隆（2）グローバルサプライチェーンの形成</p> <p>第12回 新自由主義の興隆（3）先端技術とイノベーション</p> <p>第13回 新自由主義の帰結（1）リーマンショック</p> <p>第14回 新自由主義の帰結（2）格差問題のゆくえ</p> <p>第15回 まとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	事前に提示する参考文献を予習し、授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。					
成績評価の方法	期末レポート（60%）、授業ごとの小論文（40%）					

授業科目	国際経済論		担当者	松本 俊哉
	[履修年次]	[学期]	授業外対応	授業後の教室およびメールで対応
	[後期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 グローバリゼーションの進展とその行方を考える。</p> <p>【概要】 基礎的知識と主要論点を押さえながら戦後の世界経済の動向、現状や問題点について理解する。</p> <p>【到達目標】 ①貿易や国際通貨に関する基本的なしくみを理解する。②グローバリゼーションとのかかわりのなかで世界の諸国・諸地域および日本の経済社会の現状や課題を考察することができるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 山本和人・鳥谷一生編『世界経済論 岐路に立つグローバリゼーション』ミネルヴァ書房、2019年</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介、印刷して配布する予定。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス 国際経済と私たちの生活、授業計画、成績評価について</p> <p>第2回 グローバリゼーションについて考える</p> <p>第3回 貿易の歴史 貿易が作り出した世界 (テキスト第1章)</p> <p>第4回 貿易の基礎理論 (テキスト第3章)</p> <p>第5回 国際通貨の基礎理論 (テキスト第3章)</p> <p>第6回 戦後の国際通貨・貿易システム (テキスト第4章、第5章)</p> <p>第7回 国際通貨・貿易システムの変容 (テキスト第4章、第5章)</p> <p>第8回 多国籍企業と国民経済 (テキスト第7章)</p> <p>第9回 中間テスト</p> <p>第10回 アメリカ経済の影響力 (第2章、第8章)</p> <p>第11回 EU統合の意義 (第9章)</p> <p>第12回 中国・アジア諸国の経済成長 (第10章、第11章)</p> <p>第13回 新興国・途上国経済へのグローバリゼーションの影響 (第6章、第12章)</p> <p>第14回 世界経済と日本経済 (第13章)</p> <p>第15回 コロナショックと世界経済、全体まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	指定テキストの該当箇所や授業中に配布する参考資料等を用いて予習と復習をする。			
成績評価の方法	毎回の内容理解・感想・質問用紙の提出 (30%)、中間テスト1回実施 (40%)、期末レポート提出 (30%)			
実務経験について				

授業科目	アジア経済論		担当者	山本 一哉
	[履修年次]	[学期]	授業外対応	講義終了時 (メールでは随時)
	[1, 2, 3年いずれでも履修可]	[前期]	[単位]	[2]
			[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 アジア諸国の経済発展と課題を学ぶ</p> <p>【概要】 本講義では、東アジア、東南アジア、南アジア諸国の経済発展と構造変化を学ぶとともに、各国経済が抱える課題やアジア域内における相互依存関係 (貿易・投資) の深化、また日本とアジア諸国との経済関係等について解説する。特に、アジアだけでなく世界において政治・経済的なプレゼンスを急激に高めつつある中国経済について詳しく解説する。</p> <p>【到達目標】 アジア諸国の経済発展の現状、要因、プロセスと各国が抱える問題点について理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (使用しない。講義の際にレジュメ・資料を配付する)。</p> <p>(2) レジュメに記載する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンスー本講義の概要と進め方について</p> <p>第2回 日本の経済発展ー戦後の高度経済成長</p> <p>第3回 東アジア諸国の経済発展と課題ー韓国と台湾</p> <p>第4回 東アジア諸国の経済発展と課題ー香港とシンガポール</p> <p>第5回 東南アジア諸国の成長戦略と構造変化ータイ・マレーシア</p> <p>第6回 東南アジア諸国の成長戦略と構造変化ーフィリピン・インドネシア</p> <p>第7回 東南アジア諸国の成長戦略と構造変化ーベトナムの「ドイモイ」政策と経済発展</p> <p>第8回 国際的な資本移動とアジア通貨危機ー東南アジア・韓国</p> <p>第9回 中国の「改革開放」戦略と経済発展</p> <p>第10回 中国の経済発展と経済格差の拡大ー地域発展戦略の転換と産業集積</p> <p>第11回 中国の「改革開放」戦略と経済発展ー人民元国際化・資本取引の自由化</p> <p>第12回 中国の貿易・直接投資の拡大ー「一帯一路」戦略・米国との通商摩擦</p> <p>第13回 南アジア諸国の経済発展ーインド、パキスタン、バングラデシュ</p> <p>第14回 アジア域内の相互依存の深化ー市場メカニズムと FTA による経済統合</p> <p>第15回 日本とアジア諸国の貿易及び直接投資</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験 (100%)			

授業科目	外国貿易論		担当者	大重 康雄				
	[履修年次]	1年, 2年, 3年	3年授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 グローバル化という視点でとらえた貿易取引の変化とその問題について考える</p> <p>【概要】貿易や外国為替取引の仕組みをわかりやすく解説し、変化する貿易の現状とSDGs等国際間で発生する様々な課題を報道資料や日本貿易振興機構（ジェトロ）等のデータを使い考える。</p> <p>【到達目標】 貿易取引の基本的仕組み理解し、国際経済の動静に対し自分なりの見解が持てる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) グローバル・エコノミー第3版 (有斐閣アルマ)</p> <p>(2) 講師配付プリント (毎回配付)</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 開講 貿易と私たちの暮らし</p> <p>第2回 自由貿易のもたらす利益</p> <p>第3回 新古典派貿易理論を学ぶ</p> <p>第4回 グローバル生産システムと貿易の現状</p> <p>第5回 国際収支からみた貿易の姿</p> <p>第6回 外国為替市場と為替レート</p> <p>第7回 貿易政策と貿易摩擦の歴史</p> <p>第8回 貿易決済の方法</p> <p>第9回 国際貿易の論点 中間まとめ</p> <p>第10回 世界の地域貿易協定の現状</p> <p>第11回 東アジアの発展と日本の貿易</p> <p>第12回 鹿児島県の貿易取引の現状</p> <p>第13回 グローバリゼーションの将来を考える</p> <p>第14回 グローバル・イシュー 開発と環境を考える</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	授業中各自に質問をするのでシラバスに従って予習をしてください。また復習し次回質問すべきことをまとめておくこと。							
成績評価の方法	筆記試験 (80%) + 授業での発言内容 (20%)							
実務経験について	地域金融機関職員としての実務経験 (外貨資金取引・貿易投資相談業務など)、AIBA 認定貿易アドバイザー							

授業科目	国際関係論		担当者	福田 忠弘				
	[履修年次]	1, 2, 3年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】国際社会に生じうるさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。</p> <p>【概要】本講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史 (特にアジアにおける冷戦) を対象とし、国際システムの歴史の変遷をたどる。</p> <p>【到達目標】国際社会の現代的諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない</p> <p>(2) 多賀秀敏編『平和学から見る世界』(成文堂、2020年)</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的、方法</p> <p>第2回 国際関係論の基礎1：国内社会と国際社会は何が違うのか</p> <p>第3回 国際関係論の基礎2：行為体と争点の多様化</p> <p>第4回 国際関係のなりたち1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦</p> <p>第5回 国際関係のなりたち2：アジアにおける冷戦の拡大1</p> <p>第6回 国際関係のなりたち3：アジアにおける冷戦の拡大2</p> <p>第7回 国際関係のなりたち4：朝鮮戦争とベトナム戦争</p> <p>第8回 国際関係のなりたち5：大国の支配とナショナリズム</p> <p>第9回 国際関係のなりたち6：冷戦後の世界秩序</p> <p>第10回 国際社会における諸問題1：グローバリゼーションと貧困問題</p> <p>第11回 国際社会における諸問題2：貧困と開発</p> <p>第12回 国際社会における諸問題3：国境を越える諸問題</p> <p>第13回 国際社会における諸問題4：グローバルガバナンス (1)</p> <p>第14回 国際社会における諸問題5：グローバルガバナンス (2)</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する							
成績評価の方法	試験 (100%) によって評価する。							

授業科目	アジア事情		担当者	福田 忠弘	
	[履修年次]	1, 2, 3年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	後期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】東アジア、東南アジアの歴史と現在の状況について把握する。</p> <p>【概要】アジアは、地理、歴史、言語、文化、宗教、民族など、すべての面において多様である。本講義では、「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を得ながらも、脱植民地化、国民国家建設など「共通性」について焦点をあてる。</p> <p>【到達目標】「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を深める。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的と方法</p> <p>第2回 「アジア」という概念：アジアはどこまでがアジアか</p> <p>第3回 歴史的形成1：植民地以前のアジア</p> <p>第4回 歴史的形成2：植民地のようす</p> <p>第5回 歴史的形成3：植民地からの独立</p> <p>第6回 歴史的形成4：脱植民地化、国民国家建設、開発</p> <p>第7回 歴史的形成5：冷戦下のアジア</p> <p>第8回 東南アジア1：インドシナ三国</p> <p>第9回 東南アジア2：ベトナム戦争の影響</p> <p>第10回 東南アジア3：タイ、ミャンマー、マレーシア</p> <p>第11回 東南アジア4：メコン河流域開発</p> <p>第12回 東南アジアの地域協力体制：ASEANの形成</p> <p>第13回 アジアにおける協力体制1：ASEANを中心とする協力1</p> <p>第14回 アジアにおける協力体制2：ASEANを中心とする協力2</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する				
成績評価の方法	レポート(100%)によって評価する。				

授業科目	地域経済論		担当者	岡田 登	
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	前期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地域経済構造及び理論を理解する。</p> <p>【概要】経済のグローバル化が進行し、国内においても地域間格差が拡大する中で、地域的な特徴を見極めて経済の再建と発展を図ることが求められる。この講義では、地域経済構造と基本的な理論を学び、地域の発展に向けた対応策について検討する。</p> <p>【到達目標】地域経済構造と理論を正確に理解することで、地域の特徴を分析する能力を身につけ、その発展に向けて考察できるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに：講義の目標、地域とは何か、等質地域と機能地域からみた地域経済</p> <p>第2回 都市地域論(1)：都市と農村、都市化の概念、都市の発展段階</p> <p>第3回 都市地域論(2)：都市の内部構造とメカニズム、都市システム</p> <p>第4回 産業地域論：産業構造の変化、都市の機能、都市の分類、地域経済基盤分析</p> <p>第5回 第三次産業地域論：中心地理論</p> <p>第6回 工業地域論：工業立地の変動、工業立地論、工業立地の分散</p> <p>第7回 農業地域論：農業立地論、農業地域区分、技術の地域的拡散</p> <p>第8回 漁業林業地域論：漁業地域の資源管理とコモンス論、林業地域の資源管理とガバナンス</p> <p>第9回 地域経済分析：地域経済計算、地域成長の経済分析、地域間格差</p> <p>第10回 内発的発展論：定義、事例紹介</p> <p>第11回 都市計画とまちづくり：仕組み、中心市街地と郊外、景観と緑地</p> <p>第12回 コンパクトシティ：経緯と概念、都市空間の形成、公共交通ネットワーク</p> <p>第13回 地域連携(1)：地域内連携、地域間連携</p> <p>第14回 地域連携(2)：産業連携</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	復習をして次回の講義を受けること				
成績評価の方法	授業時に実施するレポート(40%)＋期末試験(60%)				
実務経験について	自治体の元職員				

授業科目	地域産業政策	担当者	岡田 登
	[履修年次] 1, 2, 3年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地域間格差の実態を理解し、これからの地域づくりの方策を探る。</p> <p>【概要】経済のグローバル化が進行し、国内においても地域間格差が拡大する中で、地域的な特徴を見極めて経済の再建と発展を図ることが求められる。地域経済論では地域経済構造と基本的な理論を学ぶが、この講義では地域間格差の現状と顕在化する問題点を理解し、これからの地域づくりの方策を探る。</p> <p>【到達目標】地域間格差の現状と問題点を正確に理解し、具体的な取り組みの実態を学び、地域のあり方を考えて発想できるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに：講義の目標</p> <p>第2回 政策的要因(1)：国土総合開発法、全国総合開発計画</p> <p>第3回 政策的要因(2)：新全国総合開発計画、第三次全国総合開発計画</p> <p>第4回 政策的要因(3)：第四次全国総合開発計画、21世紀の国土のグランドデザイン</p> <p>第5回 地域間格差の現状(1)：ライフコースと人口移動</p> <p>第6回 地域間格差の現状(2)：産業、社会、生活</p> <p>第7回 地域間格差の是正(1)：過疎化対策、広域的市町村合併、地方分権</p> <p>第8回 地域間格差の是正(2)：国土形成計画法、地方創生</p> <p>第9回 地域づくりの事例(1)：大都市地域</p> <p>第10回 地域づくりの事例(2)：都市地域</p> <p>第11回 地域づくりの事例(3)：工業地域</p> <p>第12回 地域づくりの事例(4)：農村地域</p> <p>第13回 地域づくりの事例(5)：観光業地域</p> <p>第14回 地域のあり方を考える：鹿児島を事例に</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	復習をして次回の講義を受けること		
成績評価の方法	授業時に実施するレポート(40%)＋期末試験(60%)		
実務経験について	自治体の元職員		

授業科目	地方財政論	担当者	船津 潤
	[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	講義前後、それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが、遠慮なく声をかけてください)
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地方財政に関する基本的な概念や理論、日本の地方財政制度の内容、実態、特徴、課題に関する理解を深めること</p> <p>【概要】地方自治とは何か、日本の国と地方自治体との関係(政府間関係)の特徴を踏まえて、日本の地方財政について、基本的な概念や理論、制度について講義します。そこでは、地方団体の自治体としての側面と国の地方行政機関としての側面の葛藤やグローバル化など、地方財政に改革が求められている背景、そして生活の基盤を支える地方財政の重要性を強く意識しながら講義を進めます。</p> <p>【到達目標】①日本の地方財政制度について理解し、説明できるようになること ②地方財政について主体的に考察し、判断できるようになること ③自分が暮らす地域の課題を見出し、その解決策を提案できるようになるための基礎力を身につけること</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 総務省編『地方財政白書 各年版』日経印刷</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明</p> <p>第2回 地方自治(1)：定義、地方政府の特徴、地方分権が求められる背景等</p> <p>第3回 地方自治(2)：グローバル化の影響等</p> <p>第4回 地方の予算(1)：予算の役割、地方予算の特徴、中央と地方の相互依存関係等</p> <p>第5回 地方の予算(2)：日本の制度の特徴、課題、日本の政府間関係の特徴の影響等</p> <p>第6回 地方の決算：定義、日本の制度と問題点、外部監査、市民オンブズマン等</p> <p>第7回 地方の経費(1)：定義、主な分類とその見方、都道府県と市町村の違い等</p> <p>第8回 地方の経費(2)：義務的経費と投資的経費、その問題点等</p> <p>第9回 国庫支出金(1)：補助金の分類、国庫支出金とは、求められる役割、補助金制度において配慮すべき原則等</p> <p>第10回 国庫支出金(2)：実態、問題点、三位一体の改革等</p> <p>第11回 地方交付税(1)：財政調整制度とは、地方交付税の制度等</p> <p>第12回 地方交付税(2)：機能、問題点等</p> <p>第13回 地方債：定義、適債事業、2006年度からの変化等</p> <p>第14回 住民自治：シアトル・メトロの事例について</p> <p>第15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等</p>		
授業外学習(予習・復習)	講義の前後に総務省のサイト等に関連事項について調べ、検討すること、普段から地方財政関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディア(民間企業との関係では特に興味深い)記事を出すことがあります)を含む複数(公務員試験を含む就職活動や四大への編入(地域との連携は殆どの大学にとって重要な課題です)にも非常に有効です)。そして、講義内容に直接関係しなくても、聞きたいことが出てきたら、遠慮なく質問してください。		
成績評価の方法	筆記試験(80%)、小テスト(20%)を基本とし、アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	非営利組織論		担当者	丸田 真悟	
	[履修年次]	1,2,3年	授業外対応	適宜対応(要予約)	
	[学期]	後期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会における非営利組織（NPO）の役割と課題そして可能性</p> <p>【概要】非営利組織（NPO）は、医療・福祉から街作り、学術・文化・芸術、国際交流まで社会のあらゆる分野で市民の多種多様なニーズに応えるサービスを創り出しています。行政や企業との協働も一段と進み、その存在は今や市民生活の中で重要な位置を占めるようになってきました。一方でNPOを巡る環境も大きく変わりつつあります。そこで本講義ではNPOの概念と組織運営について考えると共に、現代日本社会におけるNPOの役割と課題、これからの可能性について考えます。</p> <p>【到達目標】NPOに関する基本的な知識を習得し、現代社会におけるNPOの役割と課題、可能性を考える基盤を養います。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを使用</p> <p>(2) 雨森孝悦『テキストブック NPO 第3版』東洋経済新報社（2020）、澤村明・田中敬文・黒田かをり・西出優子『はじめてのNPO論』有斐閣（2017）、田尾雅夫・吉田忠彦『非営利組織論』有斐閣（2009）ほか随時紹介します。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 非営利組織（NPO）とは何か 「非営利」の意味、NPOの定義について考えます。</p> <p>第2回 NPOとボランティア NPOを支える理念について考えます。</p> <p>第3回 NPOの歴史と存在理由 資本主義経済の中で存在感を増している理由を考えます。</p> <p>第4回 NPOの世界① 様々なNPOの活動分野とその組織としての特徴について考えます。</p> <p>第5回 NPOの世界② 様々なNPOの活動分野とその組織としての特徴について考えます。</p> <p>第6回 NPOの機能 NPOが社会において果たしている機能について考えます。</p> <p>第7回 NPOにかかわる制度と政策 NPOの運営や税に関する制度について考えます。</p> <p>第8回 行政、企業とNPO 行政や企業との「協働」・「パートナーシップ」について考えます。</p> <p>第9回 NPOのマネジメント① NPOの経営管理について考えます。</p> <p>第10回 NPOのマネジメント② NPOの経営戦略について考えます。</p> <p>第11回 NPOのマネジメント③ NPOの資金調達と評価手法について考えます。</p> <p>第12回 (WS) NPOをつくる① 具体的にNPOを考え、立ち上げる実習です。</p> <p>第13回 (WS) NPOをつくる② 具体的にNPOを考え、立ち上げる実習です。</p> <p>第14回 NPOの課題と可能性 NPOを取り巻く環境とそこから見えてくる課題と可能性について考えます。</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	レポート(70%)＋授業ごとに実施する小論文(30%)				
実務経験について	認定NPO法人理事長				

授業科目	労働法		担当者	疋田 京子	
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	コミュニケーションカードを利用する	
	[学期]	後期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ディーセント・ワーク（人間らしい働き方）を実現するための基礎知識</p> <p>【概要】「過労死」が国際語として通用するほど有名な日本の長時間労働。また顕著になってきた正規と非正規の格差の拡大。こうした日本企業に根強い労働慣行は、どのような法制度の中で起こったのか。改革を目指す法整備と共に考える。</p> <p>【到達目標】働くときに知っておくべき労働者の権利と、使用者が守るべき義務とは何かを理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 講義時に適宜紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：労働法を知る大切さ。</p> <p>第2回 憲法一民法一労働法の関係：労働組合って何？</p> <p>第3回 労働法と労働契約：自分の労働条件を知らないとなどうなる？</p> <p>第4回 賃金に関するルール：研修期間中は最低賃金法の適用がないってホント？</p> <p>第5回 労働時間に関するルール：タイムカードはいいつ押すの？</p> <p>第6回 労働時間に関するルール（2）：時間外労働・深夜労働・休日労働とは？</p> <p>第7回 「各種保険完備」とは：バイトのケガは自己責任？</p> <p>第8回 労働契約終了のパターン：辞めると辞めさせられるは何が違う？</p> <p>第9回 有給休暇の権利：アルバイトにも有給休暇があるってホント？</p> <p>第10回 産前・産後・育児・介護休業：働くことは人権です！</p> <p>第11回 内定辞退と内定取消し：「必ず入社します」と誓約書を出したら内定辞退はできないの？</p> <p>第12回 募集・採用に対する法的規制：採用面接で会社は何を質問してもいいの？</p> <p>第13回 賃金に関する応用問題：残業代込みの基本給の場合、それ以上の残業代は出ないの？</p> <p>第14回 労働契約の応用問題：契約社員は契約期間が満了したらどうしたらいいの？</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	復習をしっかりとってください。				
成績評価の方法	2回のレポート（中間レポートと最終レポート）の提出（80%） 授業ごとのミニレポート（20%）				
実務経験について					

授業科目	地域研究特講	担当者	山本 晃正
	[履修年次] 1年, 2年, 3年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	講義終了時に適宜対応します
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 消費者をめぐる法律問題の諸相</p> <p>【概要】 様々な手口の悪徳商法や詐欺的商法の手口とその規制, 危険な製品による被害の賠償, 危険な投機的取引の規制, サラ金の規制, 公正な競争や表示の規制など, われわれ消費者が日々の消費生活で直面する様々な法律問題を, 消費者に認められている各種の諸権利の理解を中心として, 最新の法律改正も交えながら, できるだけ具体的事例を取り上げながら考えていく。</p> <p>【到達目標】 消費者の性格と, 直面する法律上の諸問題を具体的かつ多面的に理解し, その上で, 消費者に保障されている法律上の制度や諸権利の内容を理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 杉浦市郎編著『新・消費者法これだけは〔第3版〕』法律文化社 (2)		
授業スケジュール	第 1回 消費者と契約: 悪徳商法のターゲットと手口, 契約とは何か, 契約の拘束力からの離脱 第 2回 消費者と契約: 消費者契約法 (目的, 対象, 取消権) 第 3回 消費者と契約: 消費者契約法 (不当条項の無効, 適格消費者団体による差止請求権), 電子消費者契約法 第 4回 消費者と契約: 特定商取引法 (規制対象, 訪問販売・電話勧誘販売の諸規制) 第 5回 消費者と契約: 特定商取引法 (訪問販売・電話勧誘販売での民事救済制度, クーリングオフの意味と制度概要) 第 6回 消費者と契約: 特定商取引法 (通信販売・特定継続的役務提供・業務提供誘引販売取引・連鎖販売取引=マルチ) 第 7回 消費者と契約: 特定商取引法 (送り付け商法), 無限連鎖講防止法, 復習のための第 1 回模擬演習テスト 第 8回 消費者と安全: 製造物責任法 (目的, 製造物の概念・欠陥の概念・責任主体・製造物責任・免責事由) 第 9回 消費者と信用取引: 貸金業法とグレーゾーン金利など 第 10回 消費者と信用取引: 割賦販売法 (割賦販売・ローン提携販売・信用購入あっせん) 第 11回 消費者と金融商品取引: 金融商品取引法 (投資家=消費者保護規制) と金融商品販売法 第 12回 消費者と公正な競争秩序の維持: 独占禁止法 (競争政策の意味, カルテル禁止と灯油裁判, 共同の取引拒絶など) 第 13回 消費者と公正な競争秩序の維持: 独占禁止法 (差別対価, 不当販売, 抱合せ販売, 再販売価格の拘束) 第 14回 消費者と不当表示・景品提供: 不当景品類及び不当表示防止法 (景品表示法・改正法) 第 15回 まとめ: 消費者基本法, 消費者の諸権利, 復習のための第 2 回模擬演習テスト		
授業外学習(予習・復習)	テキストの該当ページを読み, ほぼ毎回配付する資料も利用して, 予習と復習を行って下さい。		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	地方自治法	担当者	山本 敬生	
	[履修年次] 1,2,3年履修可 [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	適宜対応 (要予約)	
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】住民自治, 団体自治といった地方自治の基礎理論を理解した上で, 地方公共団体の種類及び事務, 住民の権利義務, 条例と規則, 議会, 執行機関を中心に地方自治法を体系的に学習し, 地方の時代における国と地方公共団体との新たな関係について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】地方自治法は, 国と地方自治公共団体の役割分担, 機関委任事務の廃止に伴う法定受託事務の創設, 普通地方公共団体に対する国または都道府県の関与, 国と普通地方公共団体との間の係争処理手続等を規定している。本講義では, 地方自治法をわかりやすく解説することで, 地方自治法が地方分権改革を推進する上でいかなる役割を果たすかを学習する。</p> <p>【到達目標】地方自治法の基本構造を正確に理解し, 国と地方公共団体のあるべき関係を法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 佐伯仁志他編, 『ポケット六法 (令和4年度版)』, 有斐閣			
授業スケジュール	第 1回 地方自治の意義 第 2回 地方公共団体の種類 第 3回 地方公共団体の区域・事務 第 4回 住民の権利義務(1) 第 5回 住民の権利義務(2) 第 6回 条例と規則(1) 第 7回 条例と規則(2) 第 8回 議会(1) 第 9回 議会(2) 第 10回 執行機関(1) 第 11回 執行機関(2) 第 12回 国等の地方公共団体への関与 第 13回 長と議会との関係(1) 第 14回 長と議会との関係(2) 第 15回 予算	・住民自治, 団体自治, 伝來說, 固有権説, 地方自治の本旨について ・地方公共団体の構成要素 (住民, 区域, 法人格), 都道府県, 市町村について ・区域, 機関委任事務, 法手受託事務について ・住民, 条例の制定改廃の請求, 事務監査の請求について ・議会の解散請求, 議員, 長及び特定職員の解職請求, 住民監査請求について ・条例制定権の範囲と限界, 法令先占論, 条例の効力について ・条例制定手続, 条例と罰則, 行政罰, 規則の制定事項について ・議会の地位, 町村総会, 議会の組織, 議会の権限, 調査権について ・定例会, 臨時会, 議会の運営, 会議公開の原則, 会期不継続の原則について ・長の地位, 長の権限, 長の職務の代理, 地方公共団体の事務所について ・行政委員会の意義, 長と行政委員会との関係, 監査委員, 教育委員会について ・国の関与の原則, 法定受託事務の処理基準, 国地方係争処理委員会について ・議会の監視, 再議制度, 一般的拒否権, 特別的拒否権について ・専決処分, 長に対する不信任議決, 議会の解散, 再度の不信任議決について ・予算事前議決の原則, 予算公開の原則, 会計年度独立の原則について		
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。			
成績評価の方法	筆記試験 (90%) + 授業での発言内容 (10%) を基準にして評価する。			

授業科目	簿記論Ⅱ		担当者	岡村 雄輝
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
				[授業形態]
				講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複式簿記の基本原則を学ぶ</p> <p>【概要】日商簿記3級レベルのテキスト、ワークブックを使用して複式簿記による記帳手続を解説し、問題演習に取り組みます。簿記力を着実に養い、より高度な会計を学ぶためには、問題演習の反復を通じた複式簿記の基本原則の理解が肝要です。勤勉な学習姿勢が望まれます。※簿記論Ⅰと連続して講義を展開しますので、併せて受講してください。</p> <p>【到達目標】個別の勘定科目に応じた決算手続、補助簿、伝票の記入を学習する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 渡部裕互, 片山寛, 北村敬子 (編)『新検定 簿記講義3級 商業簿記』『新検定 簿記ワークブック』(令和4年版), 中央経済社。</p> <p>(2) 伊藤龍峰ほか『基本簿記原理』(第2版), 中央経済社。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 簿記とは? : 簿記の意義, 目的, 財務諸表</p> <p>第2回 仕訳と転記 : 仕訳の意義, 勘定への転記</p> <p>第3回 決算 : 決算の意義と手続, 試算表作成</p> <p>第4回 決算 : 帳簿の締切りと財務諸表の作成, 決算手続と精算表</p> <p>第5回 現金と預金 : 当座預金と当座借越, その他の預金, 小口現金</p> <p>第6回 繰越商品・仕入・売上 : 仕入帳と売上帳, 商品有高帳</p> <p>第7回 売掛金と買掛金 : 売掛金明細表と買掛金明細表, クレジット売掛金, 前払金と前受金</p> <p>第8回 その他の債権と債務 : 仮払金と仮受金, 受取商品券, 差入保証建</p> <p>第9回 有形固定資産 : 有形固定資産の取得と売却, 減価償却, 固定資産台帳, 年次決算と月次決算</p> <p>第10回 資本 : 株式会社の設立と株主の発行, 繰越利益剰余金, 配当</p> <p>第11回 収益と費用 : 収益・費用の未収・未払いと前受け・前払い, 消耗品と貯蔵品</p> <p>第12回 伝票 : 仕訳帳と伝票, 3伝票制, 伝票から帳簿への記入, 伝票の集計</p> <p>第13回 財務諸表 : 精算表の作成, 財務諸表の作成</p> <p>第14回 総合問題 : 問題演習と解説②</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	毎回復習をすること。継続的な学習なしに簿記はできるようになりません。			
成績評価の方法	期末テスト80%, 小テスト20%			

授業科目	経営管理論		担当者	竹中 啓之
	[履修年次]	1,2,3年いずれでも履修可	授業外対応	適宜対応(要予約)、及び講義終了後
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
				[授業形態]
				講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】企業経営や組織運営での「ヒト」及び「組織」の管理方法について講義する。</p> <p>【概要】2人以上の個人が集団として活動する場合、そこには必ずその集団の行動を調整する役割が必要となり、その役割を一般的に「管理」と呼んでいます。すなわち管理はすべての集団・組織において存在する職能であるといえます。また「経営」とは、財またはサービスを生産する経済活動に従事する組織体を統制することだと定義することができます。したがって経営管理とは、経営活動を行う組織体を調整する職能ということになり、このような活動を行うのは経営者や管理者の役割です。この講義では、彼らが、目的を実行するための効率的な組織運営のための工夫や、組織内部にいる関係者および組織外部のさまざまな状況との関わり合いの中、対処している方法について講義していきます。</p> <p>【到達目標】組織管理の難しさを理解する。経営管理に関する諸学説を概観する。経営管理に関連する専門用語を知る。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に配布するプリント</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 講義概要の説明 : 講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第2回 経営管理論とは何か : 管理論の特徴と他の経営学関連の科目と連携について説明する。</p> <p>第3回 組織における人間 (1) : 企業で人を管理する際の基本となる考え方などについて説明する。</p> <p>第4回 組織における人間 (2) : テイラーの科学的管理法と「経済人モデル」について説明する。</p> <p>第5回 組織における人間 (3) : メイヨー他の人間関係論と「社会人モデル」について説明する。</p> <p>第6回 組織における人間 (4) : マズローの欲求階層説と「自己実現人モデル」について説明する。</p> <p>第7回 他の動機づけモデルについて説明し、改めて人が働く意欲とはどのように生み出されるのかを考える。</p> <p>第8回 人的資源管理 (1) : 企業での人的資源管理全体の流れや考え方について説明する。</p> <p>第9回 人的資源管理 (2) : 採用管理について説明する。</p> <p>第10回 人的資源管理 (3) : 人事異動 (初任配置・配置転換・昇進など) について説明する。</p> <p>第11回 人的資源管理 (4) : 人材育成の基礎について説明する。</p> <p>第12回 人的資源管理 (5) : 人材育成の「熟練」について考えていく。</p> <p>第13回 人的資源管理 (6) : 人事評価の仕組みと賃金管理について説明する。</p> <p>第14回 リーダーの役割とは何か : リーダー (上司) として適切な行動とは何かを考える。</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	期末筆記試験 (70%)、中間レポートもしくは小テスト (30%) (予定) 詳細は1回目の講義で説明します。			

授業科目	労務管理論		担当者	近間 由幸	
	[履修年次]	1,2,3年	授業外対応	適宜対応 (要予約)	
	[学期]	後期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 労務管理に関わる諸制度と働く人々に及ぼす影響について</p> <p>【概要】 授業では、日本型雇用慣行の下での労務管理の諸制度とそれらが成立した背景について解説し、それらが時代に応じて一定の合理性を持っていたことを解説する。また、それらの諸制度がどのような労働問題を生じさせてきたのかを解説する。</p> <p>【到達目標】 歴史的・国際的な視点から、企業の働き方には多様な形が存在することを理解し、受講学生が現代の企業に望ましい労働環境とは何かについて考えられることを到達目標とする。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 梶原豊・吉村孝司編『働き方改革時代の人的資源管理』同友館 守屋貴司・中村艶子・橋場俊展『価値創発 (EVP) 時代の人的資源管理 Industry4.0 の新しい働き方・働き方』ミネルヴァ書房</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 インTRODクシヨン - 講義の概要と労務管理を学ぶ意義について</p> <p>第 2 回 労務管理とはなにか</p> <p>第 3 回 雇用管理制度のしくみ</p> <p>第 4 回 組織構造と職務内容</p> <p>第 5 回 キャリア開発のしくみ</p> <p>第 6 回 賃金管理制度のしくみ (1) 一年功賃金とはなにか</p> <p>第 7 回 賃金管理制度のしくみ (2) 一職能給と職務給</p> <p>第 8 回 人事評価制度のしくみ</p> <p>第 9 回 福利厚生制度のしくみ</p> <p>第 10 回 労働時間管理のしくみ</p> <p>第 11 回 日本企業の女性管理職・役人の現状と労務管理</p> <p>第 12 回 ダイバーシティ・マネジメント</p> <p>第 13 回 労務管理と労働組合</p> <p>第 14 回 労務管理の国際比較</p> <p>第 15 回 全体のまとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート (30%) 筆記試験 (70%)				

授業科目	原価計算		担当者	宗田 健一	
	[履修年次]	1～3年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	前期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 原価計算入門</p> <p>【概要】 原価はソフトウェアや基幹システムなどに基本的なデータを入力すれば自動的に計算されます。しかし、システムがどのような計算過程を経て原価を計算しているのかを知らなければ、システム構築や改善はできないでしょう。この講義では、原価計算の基礎について論説し、計算問題を繰り返すことで原価計算を学びます。</p> <p>【到達目標】 原価計算の理論的な理解、計算能力の獲得</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 高橋賢『テキスト原価計算』(第3版) 中央経済社</p> <p>(2) 伊丹敬之・青木康晴『現場が動き出す会計』日本経済新聞社</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス、原価および原価計算の基礎知識</p> <p>第 2 回 原価の費目別計算</p> <p>第 3 回 製造間接費の計算</p> <p>第 4 回 単純個別原価計算</p> <p>第 5 回 原価の部門別計算と部門別個別原価計算</p> <p>第 6 回 中間レポート</p> <p>第 7 回 単純総合原価計算</p> <p>第 8 回 総合原価計算における減損費と仕損費の処理</p> <p>第 9 回 工程別総合原価計算と組別総合原価計算</p> <p>第 10 回 等級別総合原価計算と連産品の原価計算</p> <p>第 11 回 標準原価計算 1</p> <p>第 12 回 標準原価計算 2</p> <p>第 13 回 直接原価計算</p> <p>第 14 回 CVP 分析</p> <p>第 15 回 まとめ：試験範囲の提示、成績評価方法の説明、質疑応答、授業評価アンケートの実施</p>				
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。毎回、計算問題に取り組む予定です。				
成績評価の方法	中間レポート (30%)、期末レポート (70%)				

\*受講生の学習進捗状況、従前の会計系履修済み科目の状況に応じて授業スケジュールを変更する場合があります。  
会計学総論、簿記論 I、簿記論 II、管理会計論を受講済みであることが望ましい。もしくは、日商3級レベルの簿記を学習済みであることが望ましい。

授業科目	経営学特講		担当者	瀬口 毅士
	[履修年次]	1～3年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
				[授業形態]
				講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代における多国籍企業の市場戦略を理解する</p> <p>【概要】本講義は、現代における多国籍企業の市場戦略について講義します。プリントの配付と板書を基本としつつ、現代の多国籍企業を理解する上で有益な各種資料を使用しながら進めます。また、リアクションペーパーやグループ・ワークを活用することで、双方向の授業を目指します。したがって、他の学生と議論し皆の前で発表することに対して積極的に参加できる学生さんの受講を望みます。</p> <p>【到達目標】多国籍企業の市場戦略における現代の特徴を知る。本講義で学んだ知識や視角を基に、新聞や経済誌などで得られる企業活動に関する情報を理解し、分析できる能力を涵養する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配付 (2)			
授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。</p> <p>第2回 多国籍企業とは何か：多国籍企業の定義や国内企業との相違について解説する。</p> <p>第3回 多国籍企業の経営環境（1）：グローバルイゼーションを中心に、多国籍企業の経営環境を講義する。</p> <p>第4回 多国籍企業の経営環境（2）：各種資料を用いて、経営環境の現代的特徴を考える。</p> <p>第5回 多国籍企業の経営環境（3）：グループ・ワークを通じて、現代の経営環境について議論する。</p> <p>第6回 多国籍企業の活動（1）：各種資料を用いて、現代社会における多国籍企業の重要性を考える。</p> <p>第7回 多国籍企業の活動（2）：グループ・ワークを通じて、多国籍企業の経営戦略について議論する。</p> <p>第8回 市場戦略の現代的特徴（1）：現代企業における市場戦略の特徴を解説する。</p> <p>第9回 市場戦略の現代的特徴（2）：各種資料を通じて、市場戦略に関する理解を深める。</p> <p>第10回 市場戦略の現代的特徴（3）：グループ・ワークによって、多国籍企業の市場戦略について考える。</p> <p>第11回 文化とは何か：文化の定義や企業活動との関連性について解説する。</p> <p>第12回 多国籍企業の市場戦略と文化の関係（1）：多国籍企業の市場戦略と文化の関係について講義する。</p> <p>第13回 多国籍企業の市場戦略と文化の関係（2）：各種資料によって、多国籍企業の市場戦略と文化を考える。</p> <p>第14回 多国籍企業の市場戦略と文化の関係（3）：グループ・ワークによって、これまでの内容を検討する。</p> <p>第15回 まとめ：全体の流れを振り返りながら、講義のポイントについて解説する。</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。			
成績評価の方法	期末筆記試験（70%）＋リアクション・ペーパー、グループ・ワーク、授業に取り組む姿勢など（30%）			

授業科目	情報管理論		担当者	竹中 啓之
	[履修年次]	1,2,3年いずれでも履修可	授業外対応	適宜対応 (要予約)、及び講義終了後
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
				[授業形態]
				講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会における情報への正しい理解と、情報管理の重要性について考えていく。</p> <p>【概要】情報社会の現在、多様な情報の取捨選択が問題となっている。また、有効な情報を無数のデータの海から選り分け、意味のあるものとして加工する能力も必要とされている。このような作業を情報管理とらえることができるが、実はこの作業の基礎には、情報とはそもそもどのようなものなのか、情報を管理することによって何をしようとしているのか、どの視点から情報を捉えようとしているのか、といった単に情報管理技術だけではなく、社会科学的な知識も必要となる。そこで、この授業ではこの点を意識しながら、情報を巡るさまざまな考え方について講義をおこなうことにする。</p> <p>【到達目標】今日的な情報の定義を理解する。メディアリテラシーに考え方について理解する。単なるデータと情報の違いを理解し、情報があふれる社会の危険性や問題点について考える。企業での情報の効果的な活用について考える。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に配布するプリント (2) 講義中に指示する			
授業スケジュール	<p>第1回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第2回 情報とは何か・情報の定義（1）：情報の定義を確認し、「情報」と「データ」の違いなどを説明する。</p> <p>第3回 情報とは何か・情報の定義（2）：情報の単位や具体的事例を示して、情報の重要性を理解する。</p> <p>第4回 情報(化)社会について取り上げ、「産業の情報化」「情報の産業化」などについて説明する。</p> <p>第5回 情報リテラシーについて（1）：情報リテラシーの概要について説明する。</p> <p>第6回 情報リテラシーについて（2）：リテラシー能力の必要性について具体的事例を踏まえ説明する。</p> <p>第7回 情報リテラシーについて（3）：情報リテラシーとメディアリテラシーの関係について考える。</p> <p>第8回 メディアの歴史について（1）：各種メディアについて理解を深める（新聞～テレビ）。</p> <p>第9回 メディアの歴史について（2）：各種メディアについて理解を深める（テレビ～ネット）。</p> <p>第10回 自分のメディア史を考える：ワークシートを利用して、自分とメディア媒体との関係を考える。</p> <p>第11回 情報操作：情報操作とは何かを説明する。</p> <p>第12回 炎上について：主にネット上で起こる「炎上」について取り上げ、特徴や対策について考える。</p> <p>第13回 情報と編集：情報発信における編集作業の重要性を認識し、編集という考え方の理解を深める。</p> <p>第14回 情報化の必要性：現代社会における情報化の必要性とその意味について考える。</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定） 詳細は1回目の講義で説明します。			

授業科目	会計情報論		担当者	宗田 健一				
	[履修年次]	2, 3年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】会計情報の作成方法、伝達方法、利用方法を知る</p> <p>【概要】会計情報の作成方法についての基礎を学ぶ。開示される会計情報について、その仕組みを知る。開示された会計情報の利用方法を知る。</p> <p>各種分析手法（成長性、収益性、安全性）について学習し、個別企業・グループの財務諸表分析を行います。その際、『金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム』（通称：EDINET（Electronic Disclosure for Investors' Network））を用いて実際の財務諸表データを入手して各種分析を行います。</p> <p>【到達目標】会計情報の作成、伝達、利用の方法を知る。基本的な財務諸表分析が行えるようになる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 宇田川荘二『中小企業の財務分析』（第5版）同友館（予定） (2)							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：履修登録確認、講義計画に関する説明</p> <p>第2回 会計情報の利用者：利害関係者、会計情報の入手方法（EDINETの使い方、アニュアルレポートの入手等）</p> <p>第3回 有価証券報告書：全体像、記載内容の確認、分析対象企業の絞り込み</p> <p>第4回 会計学と財務情報・非財務情報について</p> <p>第5回 財務諸表分析による企業分析①（収益性分析：ROA、ROEなど）</p> <p>第6回 財務諸表分析による企業分析②（収益性分析：損益分岐点分析など）</p> <p>第7回 財務諸表分析による企業分析③（成長性分析：各種増加率など）</p> <p>第8回 財務諸表分析による企業分析④（成長性分析：売上予測など）</p> <p>第9回 財務諸表分析による企業分析⑤（安全性分析：短期的視点、長期的視点など）</p> <p>第10回 財務諸表分析による企業分析⑥（キャッシュ・フロー分析①）</p> <p>第11回 財務諸表分析による企業分析⑦（キャッシュ・フロー分析②）</p> <p>第12回 時系列分析（2社以上）</p> <p>第13回 同業他社比較分析（2社以上）</p> <p>第14回 学生による分析報告とディスカッション</p> <p>第15回 まとめ：レポート試験の提示、成績評価方法の説明、質疑応答、授業評価アンケートの実施</p>							
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。毎回、宿題を課します。							
成績評価の方法	中間レポート（30%）、期末レポート（70%）							

\*受講生の学習進捗状況、従前の会計系履修済み科目の状況に応じて授業スケジュールを変更する場合があります。

授業科目	経営戦略論		担当者	瀬口 毅士				
	[履修年次]	1~3年	授業外対応	適宜対応（要予約）				
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営戦略論に関する基本的知識を習得する</p> <p>【概要】経営戦略とは、外部環境の変化に対応しながら長期的な存続・発展を図るための、企業の意思決定を意味します。経営戦略論のなかでも、企業全体の戦略である「企業戦略」、および事業ごとの戦略である「競争戦略」を中心に講義します。さらに、最近の企業動向を紹介しながら、現代社会における経営戦略のあり方についても解説します。</p> <p>【到達目標】経営戦略論の基本概念を知るとともに、各概念がどのような関係にあるのかについても考えることができる。また、講義を通じて獲得した知識を基に、企業に関するニュースや新聞などの情報をより理解できるようになる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配付 (2)							
授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。</p> <p>第2回 経営戦略とは何か：経営戦略論の概要を説明する。</p> <p>第3回 経営理念とドメイン：経営戦略およびドメイン（事業領域）について解説する。</p> <p>第4回 規模の経済と範囲の経済、垂直統合と水平統合：規模の経済等の基本タームを説明する。</p> <p>第5回 多角化戦略：関連型多角化と非関連型多角化の違いを中心に、企業の多角化戦略について考える。</p> <p>第6回 M&amp;Aと戦略的提携（1）：事例を紹介しながら、M&amp;Aの戦略上のメリットとデメリットを解説する。</p> <p>第7回 M&amp;Aと戦略的提携（2）：主に戦略的提携について講義する。M&amp;Aとの相違点を考える。</p> <p>第8回 経験曲線とPLC：PPMの基礎となる、経験曲線とPLCについて解説する。</p> <p>第9回 PPM：全社視点から、経営資源の配分について考える。</p> <p>第10回 経営戦略の実際：実際の企業を事例として、経営戦略の重要性を再確認する。</p> <p>第11回 競争戦略論とは何か：競争戦略論の概要や競争戦略論における2つのアプローチを紹介する。</p> <p>第12回 ポジショニング・アプローチ：M. ポーターの学説を中心に、ポジショニング・アプローチについて講義する。</p> <p>第13回 資源ベース・アプローチ：前回の内容と対比しながら、資源ベース・アプローチを説明する。</p> <p>第14回 企業の社会的責任と経営戦略：CSR戦略を中心に、企業の社会的責任について考える。</p> <p>第15回 経営戦略と現代社会：これまでの内容を振り返りながら、現代社会における経営戦略のあり方を解説する。</p>							
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。							
成績評価の方法	期末筆記試験（100%）							

授業科目	応用データ活用	担当者	倉重 賢治
	[履修年次] 1, 2, 3年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 リレーショナルデータベースの概念と基本操作</p> <p>【概要】 実務でのコンピュータ利用において、データベース処理ソフトは、非常に重要な役割を果たしている。この演習では、まず、リレーショナルデータベースの基本的な概念を論じる。次に、代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社の Access の基本操作を修得し、データベース設計に関する問題に取り組んでいく。</p> <p>【到達目標】 データベースソフト Access の使い方を習得する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 特になし		
授業スケジュール	第 1回 序論：リレーショナルデータベースの概念 第 2回 Access の操作：Access とは 第 3回 Access の操作：レコードの並べ替え 第 4回 Access の操作：レコードの追加 第 5回 Access の操作：フォームの作成 第 6回 Access の操作：選択クエリの作成 第 7回 Access の操作：さまざまなクエリ 第 8回 Access の操作：アクションクエリ 第 9回 Access の操作：データベースの設計 第 10回 Access の操作：リレーションシップの作成 第 11回 Access の操作：リレーションシップされたクエリの計算 第 12回 Access の操作：レポートの作成 第 13回 Access の操作：レポートのアレンジ 第 14回 Access の操作：マクロの利用 第 15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	講義中の小テスト (50%) + 期末試験 (50%)		

授業科目	プログラミング	担当者	倉重 賢治
	[履修年次] 1, 2, 3年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 VBA (Visual Basic for Application) を用いたプログラミング</p> <p>【概要】 プログラミングとは、コンピュータで実行したい作業を人間ではなく計算機が理解できるように記述することである。この演習では、プログラミングの基本概念を Excel に含まれている VBA により学習する。プログラムの作成を通じて、論理的な思考を身につけることはもちろんのこと、VBA の利用により、さらに高度な Excel の活用方法が可能となる。</p> <p>【到達目標】 ・基本的なプログラミング技術を身につける。 ・VBA を利用した Excel のより高度な活用方法を修得する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 伊藤潔人, 『いちばんやさしい ExcelVBA の教本』, インプレス (2) 特になし		
授業スケジュール	第 1回 序論：プログラミングの概念 第 2回 VBA の利用：演算子と関数 第 3回 VBA の利用：変数 第 4回 VBA の利用：条件分岐 第 5回 VBA の利用：ループ処理 (1) 第 6回 VBA の利用：ループ処理 (2) 第 7回 VBA の利用：オブジェクト関連の文法 第 8回 VBA の利用：マクロの記録 第 9回 VBA の利用：Range オブジェクト 第 10回 VBA の利用：Worksheet オブジェクト 第 11回 VBA の利用：複数シートをまとめる 第 12回 VBA の利用：Workbook オブジェクト 第 13回 VBA の利用：イベントプロシージャ 第 14回 VBA の利用：ユーザフォーム 第 15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	講義中の小テスト (50%) + 期末試験 (50%)		

授業科目	財務会計論		担当者	岡村 雄輝
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
				[授業形態]
				講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】財務会計の全体像を理解する</p> <p>【概要】近年、グローバル化の影響によって会計基準の新設・改定が続き、会計への関心が高まっています。現代の経済社会では、会計の基礎概念や理論への理解が重要になっているといえます。本科目では、会計の機能を説明し、会計基準の考察を通して、現代会計の深淵に迫ってみたいと思います。※会計学総論の学修を前提として講義を展開します。また、財務会計を学ぶためには複式簿記の理解が欠かせません。簿記論の併修を勧めます。</p> <p>【到達目標】現代の経済社会で果たしている会計の役割、会計基準に通底する基礎概念や理論を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 桜井久勝『財務会計講義』(第23版), 中央経済社。</p> <p>(2) 『新版 会計法規集』(第12版), 中央経済社。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 財務会計の機能と制度：財務会計の機能と法規制</p> <p>第2回 利益計算の仕組み：企業活動と財務諸表、複式簿記の構造</p> <p>第3回 利益計算の仕組み：複式簿記の構造、利益計算と財務諸表</p> <p>第4回 会計理論と会計基準：会計基準設定のアプローチと会計情報の質的特性</p> <p>第5回 利益測定と資産評価の基礎概念：発生主義会計</p> <p>第6回 利益測定と資産評価の基礎概念：資産評価の基準</p> <p>第7回 資金運用活動の資産と収益：現金預金と有価証券、キャッシュ・フロー計算書</p> <p>第8回 売上高と売上債権：収益認識、売上債権</p> <p>第9回 棚卸資産と売上原価：棚卸資産の取得原価、原価配分、払い出し単価の決定、期末評価</p> <p>第10回 有形固定資産：減価償却、減損、リース</p> <p>第11回 無形固定資産と繰延資産：知的財産、研究開発費</p> <p>第12回 負債：負債の範囲と区分、引当金</p> <p>第13回 純資産：払込資本、稼得資本、区分表示</p> <p>第14回 財務諸表の作成と公開：財務諸表の体系、注記と附属明細表</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	講義前後にテキストを精読してください。			
成績評価の方法	期末レポート80%、中間レポート20%			

授業科目	情報論特講		担当者	岡村 俊彦, 倉重 賢治
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
				[授業形態]
				講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>ICT (情報通信技術) について実用的、応用的な学習をおこなう。</p> <p>【概要】</p> <p>ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークといった ICT を学び、日商 PC 検定 2 級知識科目と同等以上の知識を得る。表計算ソフト (エクセル) の実用的な使用方法について学習を行う。</p> <p>【到達目標】</p> <p>実社会において、自ら ICT 業務に携わり、効果的、効率的な活用ができるようにする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) FOM 出版「よくわかるマスター 改訂版 日商 PC 検定試験 2 級 知識科目 公式問題集」, プリント</p> <p>(2) 特になし</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明：授業概要と評価方法の説明</p> <p>第2回 ハードとソフト：PC等のICT機器のハードウェア、ソフトウェアの解説</p> <p>第3回 コンピュータの内部部品1：CPUとメモリの解説</p> <p>第4回 コンピュータの内部部品2：ストレージと光学ドライブの解説</p> <p>第5回 インターネットとネットワーク：TCP/IPの設定、ルータの役割の解説</p> <p>第6回 表計算ソフトの活用1：Webクエリのグラフ作成</p> <p>第7回 表計算ソフトの活用2：フィルターとピボットテーブル</p> <p>第8回 コンピュータが扱う数字1：2進数と16進数</p> <p>第9回 コンピュータが扱う数字2：負の数と実数</p> <p>第10回 情報セキュリティ：共通鍵暗号と公開鍵暗号</p> <p>第11回 シミュレーション1：シミュレーションとは</p> <p>第12回 シミュレーション2：エクセルを用いたシミュレーション</p> <p>第13回 意思決定：エクセルのソルバー</p> <p>第14回 データ分析：エクセルのデータ分析</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	レポート(30%)＋授業中の課題(40%)＋期末試験(30%)			

(注)「情報科学概論」(担当：岡村)を履修済み、もしくは同等以上の学習が終了している者を対象とする

授業科目	マーケティング論	担当者	瀬口 毅士
	[履修年次] 1～3年 [学期] 前期 [単位] 2単位	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択]	選択 (授業形態) 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】マーケティング論を体系的に学ぶ</p> <p>【概要】マーケティングとは、企業がモノやサービスを売るための仕組みづくりです。現代の企業にとって、マーケティングはますます重要になっています。本講義では、マーケティング論の基本事項を説明した後、現代社会におけるマーケティングのあり方を解説します。可能であれば、グループ・ワークを適宜取り入れることで、より理解を深めていきます。</p> <p>【到達目標】マーケティング論に関する基本的知識を習得し、消費者としてあるいはメーカーとしての視点を養うことを目標とする。すなわち、今日の企業がどのようにマーケティング戦略を遂行しているのかを理解することで、「賢い」消費者になると同時に、顧客ニーズや顧客満足度を満たすためにいかなる工夫が必要であるかを考えられることである。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配付 (2)		
授業スケジュール	<p>第 1回 インTRODクシヨン：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。</p> <p>第 2回 マーケティング論の基本概念：マーケティング論の概要や基本概念を説明する。</p> <p>第 3回 グループ・ワーク①：商品とマーケティングについて考えよう。</p> <p>第 4回 標的市場の選択：STPについて解説する。</p> <p>第 5回 消費者行動分析：消費者行動論の基本を知ること、消費者の購買行動について理解を深める。</p> <p>第 6回 競争分析：「ポジショニング」の概念を中心に、企業間競争の構造分析の方法を知る。</p> <p>第 7回 グループ・ワーク②：市場・顧客分析をしてみよう。</p> <p>第 8回 製品戦略：製品・サービスの分類や製品ミックスなどを説明する。</p> <p>第 9回 価格戦略：価格設定の重要性とその方法について講義する。</p> <p>第 10回 流通戦略（1）：流通の仕組みとチャネル選択について説明する。</p> <p>第 11回 流通戦略（2）：チャネル管理とサプライチェーン・マネジメントについて解説する。</p> <p>第 12回 プロモーション戦略：プロモーション・ミックスとメディア・ミックスなどを講義する。</p> <p>第 13回 ブランド戦略：これまでの内容を基に、ブランド構築やブランド管理について考える。</p> <p>第 14回 企業の社会的責任とマーケティング：企業の社会性とマーケティングの関係性について解説する。</p> <p>第 15回 グループ・ワーク③：ソーシャル・プロダクツを探してみよう。</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。		
成績評価の方法	期末筆記試験 (80%) +リアクション・ペーパーやグループ・ワークなど (20%)		

授業科目	流通論	担当者	近間 由幸
	[履修年次] 1,2,3年 [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択]	選択 (授業形態) 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】小売業態の変化・発展を歴史的に捉える</p> <p>【概要】授業では、日本の小売企業を対象とし、現代の小売企業を取り巻く環境や消費者ニーズの多様性に対して、小売企業がどのように対応し、進化してきたのかを歴史的、体系的に考察する。また、このような小売企業の発展とともに現われ現代の流通における課題について検討する。</p> <p>【到達目標】受講学生が現代の流通業界の具体的な姿について理解し、流通業界に関する知識を身につけ、流通ビジネスの背後にある論理やメカニズムについて考えられるようになることを到達目標としている。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 石原武政・竹村正明・細井謙一編『1からの流通論 (第2版)』碩学舎		
授業スケジュール	<p>第 1回 INTRODUCTION - 流通を取り巻く経済環境</p> <p>第 2回 流通とはなにか</p> <p>第 3回 日本の欧米化と百貨店の誕生</p> <p>第 4回 高度経済成長と総合スーパー</p> <p>第 5回 食品スーパーの革新性</p> <p>第 6回 利便性の追求とコンビニエンス・ストア (CVS)</p> <p>第 7回 ディスカウント・ストアの低価格戦略</p> <p>第 8回 専門量販店の台頭</p> <p>第 9回 ショッピングセンターの商業集積</p> <p>第 10回 インターネット技術と電子商取引 (EC)</p> <p>第 11回 流通構造の変化と小売業態</p> <p>第 12回 小売・流通における労働問題 (1) -物流危機とトラックドライバー</p> <p>第 13回 小売・流通における労働問題 (2) -接客販売業の働き方</p> <p>第 14回 デフレ支援型流通と消費行動の変化</p> <p>第 15回 全体のまとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート (30%) 期末レポート (70%)		